



# 『翠巒』の歴史に思う

県教育委員長 山田 富二



「翠巒影を  
浮かべては」

歌が、甲子園の空、高らかに流れる日がついにやって来た。思えばそれは、我が高々にとって、永い永い道程であり積年の悲願であった。

昭和五十六年一月三十一日午後四時二〇分。

「第五三回選抜高校野球大会出場決定」の朗報が届き、高々校長室は万歳の歓声と喜びの興奮に沸き返った。そして、祝賀会では、『翠巒』の合唱が響き渡り、中沢誠一校長・小山禎一野球部後援会長（四二回）を始めとする我々OBと生徒達がスクラムを組み、久し振りに学生気分に戻り母校の榮譽に酔った一瞬であった。翌日の新聞に、選抜大会出場三〇校のプロフィールが紹介されその中に卒業生の紹介欄があった。ほとんどの高校はプロ野球選手・芸能人の名前が載っていたが、我が高々は「元総理大臣・福田赴夫（二二回）」・「国務大臣・中曾根康弘（三三五

浮かべては」

回）が記載されており、「さすが高々は違うな」と母校の誇りと伝統の重みに改めて胸を張る思いであった。

昭和二十四年夏、私が高々三年の時、野球部が戦後始めて北関東大会準決勝進出の快挙をなし遂げ、全校挙げて青春の血をたぎらせたあの日が昨日の事の様に鮮明に浮んで来る。小泉農業高校・伊勢崎工業高校・桐生高校・前橋高校と破竹の勢いで撃破、ついに富岡高校を破って県大会での優勝を飾り、北関東大会に駒を進め準決勝の日を迎えたのである。相手は強豪茨城・水戸商業高校、現在の婦人青少年センターに隣接する前橋公園球場で行われた。敗戦のショックから四年を経ているものの、食糧不足は依然として厳しくさつま芋をかじり腹をすかせながら、炎天下、熱戦が繰り広げられた。当時は、野球部員が破れたボールを縫って練習ボールにしていた姿をしばしば見たが、それでもストライクを「よし」、ボールを「だめ」と呼ばせるばかりの戦争

から開放された選手達の躍動美が誠に素晴らしいものとして我々の眼に映ったものである。応援団も正規のものではなく、私が臨時の応援団長を買って出てあらん限りの奮力を振り上げ汗まみれの応援を続けた。その翠年、応援部が発足した事を聞き、私とその先駆者であったと自負している。試合は、惜しくも延長一二回の末に敗れた。敗戦の直接の原因はライオン・鈴木秋雄君（五〇回）のトンネルであったが、真剣に打球を追っての失策を誰一人責める者はなかった。むしろ鈴木君の所に飛んで行って慰めてやりたい、皆がそんな気持であったと思う。あの時の素晴らしいチームワーク、道路を飛び越え知事公舎に当たった永井賢一君（四九回）の大ホームラン等々……高校生活の最後を飾る思い出を作ってくれた野球部の諸君に今でも感謝している。

野球部の外、ラグビー部も全国大会の出場を果し、バスケット部も県下に敵なしの強豪であった。そして、そうしたスポーツを通じての友人間のつながりは、その後の我々の友情をはぐくむ大きな役割を果してくれた。旧制中学で入学、新制高校まで実に六年間の乗附時代を過ぎたが、それだけに友とのきずなは強く、勉学においても、スポーツにおいても、友と共に喜び合い苦しみ合ったものである。食べ盛り、育ち盛りを、一本のともろこしを食べ合い麦飯弁当を分ち合いながら友情を深め得た高々時代に、私は限らない感謝と誇りを抱いている。

社会人の中に真と友情は育ち難いとキケロは説いているが、純粋で多感な高校

時代にこそ友情をはぐくみ多くの友を得て欲しいと願う。友は一生の宝である。特にスポーツは、チームワークの大切さを学び、礼節・根性を培い、心と身体を鍛えるのに絶好の場である。真の人間教育は、知・徳・体の三育の歯車をいかにうまくかみ合せ完成させるかにある。そして、この三育は互いに連動しており、この中の一つをも欠かす事の出来ないものである。とかく知育のみに走り勝ちな現状では、特に体育を伸ばし、「健全なる精神は健全なる身体に宿る」のことわざ通り体育を通じて精神教育の充実を計る時であると痛感する。

我が群馬では、全国に先駆け、県議会において「スポーツ県群馬」の宣言がなされ、五八国体を控え、県民の間にスポーツへの積極的な気運がみなぎりつつある。このさなかに、母校が甲子園への道を切り開いた事は誠に意義深いものがある。

野球部の諸君、「勝敗は時の運」、余り勝ち負けにこだわらず、すがすがしい高々野球を甲子園で展開して頂きたい。「ふるさととは遠くから流れる『翠巒』——ラジオ・テレビから流れる『翠巒』に、全国に移り住む同窓生諸君が青春の懐古に浸りながら「高々頑張れ！」の声を送る姿が眼に浮ぶ。その日、私は、かつてのメンバーと肩を組み、甲子園のスタンドに仁王立となり声援を送る心算である。華麗な若き現役の応援団諸君にファイトと奮声だけは決して負けない、との自信と心意気に燃える昨今である。

（四九回 昭和建業(株)社長）

# 新任に当っての御あいさつ



学 校 長  
中 沢 誠 一

翠櫛体育会の皆様には、本校スポーツ活動振興のために平素物心両面にわたって御尽力頂いておりますこと、衷心より厚く御礼申し上げます。私も着任以来早四カ月程経ちました。英邁にして学識・経験共に豊かな名校長中野敏宗先生（二〇代）の後をお引き受け致しますには余りにも浅学微力、バラの香匂う県下随一の名門校として誇り高い高々に勤めさせて頂くことは身に余る光栄、誠心誠意本校のより一層の発展のため力を尽す覚悟でございますので今後共によろしくお力添えの程お願い申し上げます。

私は現在、次の教育重点目標を掲げ、その達成のために先生方と力を合せて一歩でも二歩でも前進を計って行く所存です。PTA・同窓会の方々には力強い御支援をお願いし、生徒諸君には頑張れと申し述べて来ました。

- 一、学力の向上。
- 二、体力の向上。
- 具体的には、進学率を高める。
- 具体的には、部活動の振興。根性を造ることからも大切である。
- 三、日本人としての自覚を持ちびしっと

した規律ある生活態度を身に付ける。この三目標の中で「体力の向上」は、意欲・集中力・根気の原動力を培うものであり、「学力の向上」と共に車の両輪として重視しています。私は、人間として社会人として必要な体力の養成に力を注ぐこと、「よし、やったらう」という人生への自信を植え付けることが現今特に大切であると思います。今の高校生が生れた頃は、既に日本は敗戦直後の悪性インフレから立ち直り、国際社会への復帰も出来、高度経済成長期に入っていました。それから今日までの時代は、物質的に豊かな社会でした。今の高校生は、欲しい物は何でも手に入り、思うことはほとんどかなえられました。豊さとは裏腹に、ゆがみも現れています。体力の弱体化、若い人の体質の弱体化が大きな問題となっているのもその一つです。余りにも便利になり歩かなくなった生活ともならみ合せて、食生活の変化など生活様式の変化から来る足腰のばねの弱さ、持久力・耐久力のなさ、骨の弱さ等の考えなければならぬ問題が多い現今です。高々生を、ひ弱なもやしっ子にしてはな

らぬと思います。歩く機会、重い物を運ぶ機会、暑さ寒さに挑戦する機会を失った子供達に、少しでもその機会を与えてやりたいと思います。

幸い創立八〇周年記念事業として、諸先輩の御尽力によりグラウンドの立派な整備を行って頂きました。放課後になると毎日グラウンド！体育館などが若い熱気で満ちあふれ躍動の光が輝きます。日常の授業を忘れて部活動に楽しむ姿、これは生活にゆとりを持つという点から大切にしなければなりません。これを深化して、血のにじむ様な練習によって上達し苦しみに倍加する喜びを得ること、自身自身を部活動で鍛えて体力と根性を養うこと、私は是非実行してもらいたいと思います。昭和五五年度県高校総体では、ラグビー部が優勝しました。バレー部も、常勝の覇者に取って代り、インターハイ出場権を獲得しました。他の運動部も、相当の活躍をしています。ラグビー部は花園へ、野球部は甲子園出場の栄光を切に期待しています。

人間として社会人として必要な体力、そこから物事に耐え失敗しても奮起して何度も取り組む粘り強さ辛抱強さが生れます。勝ち始めた時は調子が出ますが、しかし途中負けている時に跳ね返す迫力をもっと欲しいと思います。「よし、やったらう」という挑戦への自信を、是非とも身に付けさせてやりたいものです。翠櫛体育会の諸先輩に一層の御協力と御支援をお願い申し上げます。御あいさつに代えさせていただきます。(S五五・七)

群馬県議会議員  
小川薬品株式会社取締役社長

小川 健 一(三〇回)  
高崎市住吉町一  
電話〇二七三(三)三五〇〇

両毛繊維株式会社

代表取締役  
秋池 次郎(四〇回)  
高崎市常盤町一三〇  
電話〇二七三(三)三七八九

東京海上火災保険株式会社 代理店  
明治生命保険相互会社  
有限会社 小森谷商店

代表取締役  
小森谷 久(四七回)  
高崎市下豊岡町五七五  
電話〇二七三(三)二五三〇

社会福祉法人 愛善会  
鼻高保育園

理事  
国峯善次郎(五〇回)  
高崎市鼻高町六二  
電話〇二七三(三)二五五二

## 野球の消えた高中

— 大正時代の体育 —



田中友次郎

いま体育といふ学校スポーツというところ、王座を占める野球を先頭に各種多数の部の活動が盛んで正に百花斉放の有様であるが、高々八〇年を顧みると、野球が一時姿を消した野球大空位時代ともいふべき不思議な時代がある。丁度その時期に在学したので、当時を思い出して書いてみよう。これはもちろん、上和田校舎時代の物語である。

私の在学したのは、大正二年から七年（一九一三—一七）で、第一次世界大戦の終始と一致している。当時、校友会の運動部は、剣道・柔道・弓術・庭球・相撲の六部しかなかった。

高崎中学校は、創立早々「運動部を設け撃剣・ベースボール等の技を開始す」（「高崎繁昌記」・明治三七年発行）と見え、「高崎高校小史」にも、フットボール部に次いで柔道部・庭球部が加わり、明治三五年には前橋中学校と野球試合、そして三六年県立学校の野球大会等が催された。それが日露戦争時の三八年に、「時折柄として」野球の対抗試合中止の申合せが行われている。しかしそれも戦後の四〇年に前中との野球試合が復活、

また校内の野球大会を始め柔剣道・庭球大会の記録が見える。四五年に弓術部・相撲部が新たに加わって、運動部はいよいよ充実されて来た。ところが、我々の大正期に入り、第一次世界大戦開始となると、前記の六部に縮小され、野球など全く形も影もなくなっていた。

掲げられ、後輩部員の指導に当たった。当時は生徒に有段者はなく、最優の六名が六級中、六級下が一二名で、学校長から武道証を授与された。柔道も同様で、師範は小島初段、五年二名・四年二名が三級、三年一名を含めて一二名が四級に編入された。大正六年からは夏稽古が開かれ、かの納会の盛会にも見られる様に、我々の五年間は柔剣道中心の時代であった。

柔剣道の寒稽古の納会は全校生徒参加の大会であり、柔道では講道館の加納治五郎師、剣道では斯道の大家中山博道師を東京から招へい、妙技が披露され盛会であった。この納会の都度、県柔道界の高段者小此木半平初段（四回）・篠原秀吉二段（五回）・関口孝五郎初段が顔をそろえ妙技を見せてくれた。小此木氏は、高崎女子高校長小此木達夫氏の厳父。篠原氏は、元上毛新聞社長、県下の最高段者。関口氏は、前県体育協会会長関口林五郎氏（前橋の外科医）の父君。柔剣道は、上級になると専攻別となった。我々一〇余名は剣道部の助手を命ぜられて、控所の壁間に中島師範の木札に次いで名札が

学校体育の本体は徒手体操で、柔軟体操の外に鉄棒・木馬等の器械体操が課せられた。グラウンドの東寄りに、数本のポプラと並んで高さ五mもある梁木があった。両側にはしが掛り、登ると幅二〇cm程の梁の上を前方を凝視し一五m程歩く。丁度中空にそびえ立つ平均台の様なもので、気の弱い一年生などははしごを上った所ですくんでしまふ。当時の軍隊では新兵をこれで鍛えたものだ。グラウンドの一隅に相撲土俵があったが、年一度の大会以外は練習する者もなく、赤茶けて乾燥していた。寄宿舎東の桜木立に弓場があったが、放課後部員の練習を時折見掛けた程度であった。グラ

ウンドの中央は一応トラックの形をとっていたが、特に練習に利用する者もなく一面に鬼芝に覆われていた。創立二〇周年記念の運動会は、ここで二〇〇ヤード等の競争が行われた。当時は、メートルは用いずヤード競争であった。

梁木の近くにテニスコートがあった。部員の練習も寥々たつもので、清水善造氏（七回）を出した所とも思われない。安中藩出身の国語担当の猪狩梅三郎先生は、文法では県下一と自負するだけあって授業は嚴重を極め、次々に質問を投げ掛け答えられぬと早速落雷、全員この時間には恐れをなしたものだ。名物教師の猪狩サンが、ある時得意気にこんな話をした。「いま時めく清水善造（東京高等商業卒）に、ラケットの持方を教えたのは誰であろう。この我輩である。清水は榛名山麓から徒歩通学したので、五年間に腰を鍛えた。腰がしっかりとっていたからデビスカップで優勝したのである」と。

チルデンと善戦美談を残した清水先輩は亡くなられたが、いま懐かしく猪狩老先生のあの時の話を思い出すのである。

私は大正七年に卒業して上京、早稲田の阿部球場で初めて六大学野球の早明戦を見て、場内の熱狂振りに圧倒された。早慶戦は、先の流血の事件で当時中止であった。高中が野球部を再興したのは、大正一一年という。大正後半期のいわゆる大正アモクラシーの波が、我が故里にも波及して来たともいえるようか。

（一七回）同窓会理事

元県立高崎女子高校長  
元高崎経済大学講師

## 特別寄稿

## ス ポ ー ツ 回 顧 I



## 方向を指示した恩師

田 島 辰 次

人生の大半を過し回顧する時、先生の影響大なるものがある。殊に技能学科の先生の影響は、優劣の差を大きくして行くものである。幼少の頃の考えなどは先生によって左右され、自立心により社会的な枠内で精一杯努力することで道は開かれるものであると今にして感知されて来た。

私の過去は、中川小学校三年で菊地己代吉先生によりスポーツの楽しさ面白さを教えられた。走ること、跳ぶこと、跳箱、バスケットボール等、約八カ月の教育の中で芽生えた。農家の跡取りに生れたので、中学校進学などは考えずによくスポーツをやっていたし、農林学校でよくと親は考えて、受験指導はほとんど受けていなかった。急に高崎中学校を受験し、失敗してしまった。小学校五年の担任長坂幾太郎先生より「もう一度受験してみろ」といわれ、親を説得して頂いて二度目で高中に入学出来た。

家庭の事情と母親より堅く禁ぜられておったので入部はしていなかった。三年の年の秋の運動会において上級生級で走高跳・走幅跳に優勝したので、四年になつて入部した。

スポーツをやる様になつて気楽さと張りが生れ、一般教科の不安もなくなった。当時の四・五年は、特別課外指導の授業が行われていた。スポーツの練習は進学を忘れさせ、一度も受けたことはなかった。進路は、就職と無試験の推薦入学を願つておつた。五年の二学期、長坂先生が中学生としてのスポーツ成績を聞いて、金の掛らない学校へと両親の説得に来てくれた。その学校は、東京高等師範学校体育科であった。授業料なし、寮の完備、給費制度があるという学校であり、陸上競技界において第一級である。昭和初期の農村経済を考える時、中学校を卒業するのが精一杯であった。受験料を取られることもない。受験案内を取り寄せ富田先生に相談したら、「受けて損はない、やってみろ」といわれたので受験した。冬休が受験日であり、同村の親戚で海軍技術研究所に勤めておつた田島

六十勇先生(二六回)の結婚直後の家に泊めて頂き受験校の案内と数学の一夜漬の指導を受けたことが好影響し、一月末一次試験通過の通知を得た。

昭和一〇年四月、寮宛に荷物を送付し入学式に臨んだ。寮室は陸上競技部の本部室、田舎の中学卒業生が何も分らないのに親身に世話を焼いてくれた人は四年の陸上競技部主事三柳将雄さんである。三柳さんは、陸上競技の実科試験で面倒を見てくれた人であり、当時四〇〇Mの名スプリンターであった。一年間、陸上競技の指導はもとより、日常生活のすべてにお世話になった。陸上競技部長は野口源三郎先生、日本初のオリンピック参加の人であり、棒高跳・十種競技者であった。野口先生は、「体育の先生は示範が大切だ。強い弱いより、将来師となる者は模範が示せねばならない。模範を練習する必要がある」と指導された。野口先生は五〇歳台であつたと思うが、授業はアップの段階で必ず先頭に立つて走つておつた。また、「就職に就いては心配する必要はない。一直線にスポーツに精進してくれ。就職すべき学校は決定してや

る」といわれた。今昔の思いである。入学早々、在京の保証人が二人必要となつた。親戚が三人在京しておつたが、同村出身で東京市の体育主事をやっておつた竹内八郎先生が学校に近かつたのでお願いに上がった。竹内先生は東京高師の先輩であり、「将来の就職は任せてくれ」といわれた。恵まれた学校・保証人を得たと喜び、同時に自分には間違つたことの出来ない大きな枠がはめられたと思つた。途中で脱線することは許されないと決心した。担任は、体操界の大御所二宮文右衛門先生であつた。機械体操・跳箱指導においては、五〇歳以上であつたが、実に立派な示範をやってくれた。二宮先生も、将来学校の先生になるのだから立派な示範が出来る様に努力することを教えられ、クラス会で「赴任地においては、女性関係は厳に慎しむ様にしなければいけない。安いと思つて下宿の女に手を出さずな。遊びたいと思つたら、汽車に乗つて二時間離れた所へ行け。そうすれば、うわさも立たず、金も続かないだろう」と教えてくれた。

学生時代最後の昭和一三年、陸上競技の成果は上がり、東京オリンピックも二年後に控えてオリンピック候補選手となつたが、風雲急を告げ七月開催を返上してしまつた。この時も野口先生・竹内保証人と話合つてオリンピック返上ならば軍隊に行つて来た方がよいだろうと教えられ、急ぎ二年延期しておつた徴兵検査を受け、第一乙種で入隊することになつた。その当時は入隊すれば一年で帰れる

ことになっておったが、昭和一四年一月入隊の幹部候補生から制度が変り、原隊で一〇カ月、盛岡予備士官学校で八カ月となり、入隊時の予定は大きく変化してしまつた。更に一年前の一年志願兵から除隊はいつになるか分らず、高崎連隊の満州移駐ということで昭和一八年一月まで連続勤務した。この間予備士官学校で教え込まれたことは、「以死必勝・信賞必罰」という精神訓練と銃剣術・諸手剣術(剣道)であつた。高中時代は柔道をやつていたが、軍隊に入り銃剣術は否応なしの運動であつた。幸いにも、予備士官学校の中隊長上沼少佐は長身で剣道の名手であり鍛えられた。この中隊長の剣さばきは、打ち下ろす時どこに來るか分らない。面・胴・小手と真上から打ち込んで來る。この様な剣のさばきはその後將校になって試合する時非常に参考になり、体当りの体得と相まって、満州最後の時は將校団の副將になつた。

戦時真ただ中除隊し就職ということになつたが、除隊のあいさつをしななければならぬのでお世話になつた所を回つた。「すぐ欲しい」といわれたのが、同村出身で埼玉に在住しておつた須藤多市先生(二二回)であり浦和市立中学校であつた。須藤先生とは、高中時代に埼玉・本庄中学校との對抗試合で知つておつたので氣を使つてくれた。しかし文部省の給費生であつたので就職に就いて意見を聞きに出掛けたら、文部省体育局訓練課には佐久間敏三先生——群馬青年師範学校長の時に八高線で事故死——、高田通先生、三柳さん、一年先輩の常松番さん、

同級生の松島茂善さんと高師時代の陸上競技部の方々があつた。佐久間先生は静岡師範学校で三年間春季合宿でお世話になり、高田先生は十種競技の先輩であつた。「訓練課も非常時で一人召集されて欠員になつている。早速一月より出て來い。他の学校へ就職する必要はない」といわれ、昭和一九年一月より文部省勤務となつた。もちろん、体育関係の一番若手として何でもやつてみた。在勤七カ月で召集となり、終戦まで軍隊におつた。しかし短期間の文部省で行政の一端を知り、講習会開催実施の方法と体得することが出來た。担当が高専専門学校配属將校の軍事訓練講習会であつたので、銃剣術の指導法は陸軍戸山学校の教官を見習つた。

戦後、追放に該当し農村において自家農業と農業会に理事として勤め、混乱期の食糧生産・供出と難しい時期を経験した。各学校の要望もあり、新制中学校一カ年次いで富田先生に請われて高崎市立高校に勤務した。当時高々は、ラグビー・バスケットボールの全盛時代でありグラウンドと屋内控所は夜間に入るまで空けてくれない。しかし母校であり先生も先輩などで申入れをし、正科体育を実施すると共に、定時制バスケットのレベル向上に役立ち関東大会でも三回戦位までは行くことが出來た。

母校高々には三年目に替り、一年を担任した。新入生を担当することは中々難しいが、諸先生に助けられ思い切つたことをしてみた。一つは一カ月ごとに生徒の座席を列ごとに変更すること、掃除は一週間交代とすること、近視予防から南窓

にカーテンを取り付けた。掃除の一週間交代は実績が現れ次から次へと清潔になり、内藤由己男校長(一六代)よりほめられ、保健担当者よりも喜ばれた。内藤校長には、高師在学中の東京文理科大学学生会幹事長時代にスポーツ大会の激励会祝賀会等でお世話になつた間柄でわがままも許して頂いた。母校勤務で安どしておつた頃、群馬陸協のヘッドコーチとして県内選手の強化指導に當つたが、昭和二六年関東八都県大会において本県が優勝し、翌年にも優勝した。この成果を見て県教育委員会指導課長中村武雄先生に事務局勤務を勧奨され、二八年四月より勤務し、勤務場所こそ移動したが退職の五二年三月まで二四年間の運命となつた。

(三四回) 元高々教諭  
元県総合運動場所長  
兼県スポーツセンター館長)



洋菓子 喫茶

松田 製菓

松田 忠 (二一五〇回)

高崎市檜物町六  
電話〇二七三(二)二四四七四

翠巒体育会  
會計報告  
昭和五四年度



副会長 秋池 宗一郎  
監査 東 秀和  
監査 吉野 宏一  
(六五回・水泳部)  
(五一回・応援部)  
(五八回・剣道部)

収 入			支 出		
摘 要	金額(円)	備 考	摘 要	金額(円)	備 考
繰越金	19.139		総会費	130.000	
年会費	260.000	20000×13部	別費	106.000	関東・全国大会出場13部
総会費	143.500	3500×41名	運動部	10.000	450部
機関誌広告費	169.000		自給費	10.000	トワイ-6個
ゴルフ大会費	111.000	第1回 3000×37名	全校大会費	9.500	
寄付金	36.000		役員・理事会費	2.670	
計	738.639		事務局費	100.000	
			機関誌費	157.350	
			ゴルフ大会費	43.000	
			慶弔費		
			計	568.520	

差引残高 170.520円

校歌『翠樹』

甲子園

一月三一日



中川 保

昭和五五年一月五日、抜けるような青空の下で行われた秋季関東高校野球大会。場所は水戸市民球場、群馬代表高崎高校と茨城代表日立工業高校の間で闘われた準決勝戦。得点は2-0で高々リード。八、九回日立の猛反撃、両回共二走者を出してじりじりと攻めつける日立、地元ファンの大歓声。遠来の高々の一塁側スタンドは息を飲み見守る。日立の攻撃、九回裏一死・三塁、キーンという金属音を残し打球は二塁ベース近くへ、つられるように二塁走者がスタート、しかし白球は二塁手のグラブへ、しっかりとした足取りでスパイクがベースを踏み併殺成立、高々の決勝進出が決定。時に〇時二〇分、「ウォー」とも「ウワー」とも悲鳴に近い大歓声、一塁側スタンドは目頭を押え顔を真赤にしてがっちり手を握り合う関係者、来春の第五三回選抜高校野球大会出場のために必要な決勝進出を果した光景である。八〇年の執念と今までの先輩達の苦闘にこたえるかの

ように水戸の青空に響き渡る『校歌』と『翠樹』、正に感激のシーン。翌日、千葉代表印旛高校との決勝戦は残念ながら2-5と惜敗はしたが、高々球児のきびきびとしたプレーや攻守交替時の全力疾走は高校野球の原点であると本部関係者からおほめの言葉を頂いた次第である。

このように書くとは既に高々野球部の選抜大会出場が決ったかのごとく思われるが、結果は飽くまで関東大会準優勝であり、甲子園出場の悲願と期待を伴う入場券は来年一月三一日の選抜会議にある。

この会議において、初めて出場校が決定される。八月からの戦績はもちろん、校風・品位等、色々と厳しい審査基準に合格せねばならないため、夏の全国選手権大会出場の特ナメントに勝ち残ればという訳には行かないので大変難しいのである。従来の関東地区三校・東京地区二校のわくが関東二・東京三となる事も考えられるため、この決勝進出は高校野球連盟関係者の間で高く評価されている模様である。何はともかく、選手諸君の努力と精進に最大の敬意を表すと共に、本

当に「御苦労さん」といってやりたい。この長い歴史の中で、高々野球部も、県下優勝七回、地区代表決定戦進出も六度とありながら後一步の所で長蛇を逸し、選手・関係者は涙を飲んで来た。「頑張れよ」と黙って長い年月資金援助を続けて頂いた後援会の方々、技術面・精神面での指導を続けた先輩諸兄の喜びも少しおと思う。

後輩諸君、大勢の先輩達が長い年月を

掛けても成し得なかつた快挙を遂げてくれたが、ここであえて一言。前述の通り、出場決定通知があるまでは準優勝チームなのだ。高々生として、野球部員として恥しくない生活をする事を希望する。そして、自らの手で選抜大会出場の切符を手に入れようではないか。甲子園出場の際は、群馬の代表ではないのだ。関東の代表として、堂々と胸を張って高々健児の意気を全国に示して欲しい。そのためには、選手はもとより、関係者全体の自重と研さんが大事と思う。

応援歌『翠樹』、戦前も現在も応援歌である。しかし、敗戦後の一時期、前校歌の字句が時世に合わないとかの理由で『翠樹』が校歌として使われた事があった。我々は、その時期、校歌『翠樹』を歌った数少ない卒業生である。創立六〇周年を記念し現在の校歌「セルリアンブルー」に変わり、今日に至っている。野球部の悲願として、甲子園で『翠樹』を歌う事が合言葉だった。戦前・戦後を通じて多くの卒業生が愛唱し、今日でも学舎を思い故郷を思って歌われている唯一の歌である。やっとその日が目前である。しかし、『翠樹』は歌われないのだ。大会規則——「勝者の荣誉は校旗の掲揚と校歌の吹奏をもって行ふ」。ついに甲子園で歌われる事のない『翠樹』、長い間我々を待ち続けてくれたこの歌の宿命に何かを感じてこの文を結ぶ。

もう一度後輩諸君、御苦労さん。

——一月三一日の春を思つて——  
(五二回・野球部 榎高崎刃物店)

第三三回秋季関東高校野球大会

◇県予選 (五五・九一〇)

高々5 — 2 沼田 二回戦

高々13 — 0 前橋育英 三回戦

高々7 — 2 前橋商 準々決勝

高々3 — 0 高崎商 代表決定戦

高々2 — 1 吉井 決勝

◇関東大会 水戸市(五五・一一)

▲一回戦

高々 4 0 0 0 0 2 0 2 八回

0 0 0 0 0 0 0 0 コールド

茨城・水戸農

▲準々決勝

高々 0 0 0 0 0 3 0 0 0 3

1 0 1 0 0 0 0 0 0 2

栃木・国学院大栃木

▲準決勝

高々 0 0 0 1 0 0 0 1 0 2

0 0 0 0 0 0 0 0 0 0

茨城・日立工

▲決勝

高々 0 0 0 0 0 0 1 1 0 2

2 0 0 0 0 0 1 2 X 5

千葉・印旛



# 新 役 員 の 抱 負



## 副会長として



副会長  
設楽 嘉男

今回、副会長の重責を帯びる事となりました。果してその任に耐えるかどうか

心もとないのでありますが、かくなる上は能う限りの事を致し皆様の御期待に背かぬ様にと思っております。幸い国峯善次郎会長(五〇回)がその道のベテランであられるし長年のキャリアの持主でありますので大いに御指導願って、任期だけは大過なく勤めさせて頂く所存です。願みれば、卒業して早二〇数年。「光

陰矢のごとく、歲月流るるごとし」のたとえ通り、時の過ぎるのは早いものだと思います。思えば、私の過した青春時代も、良き思い出が一杯あります。この思い出も、我が母校高々があったればこそ作られたものであります。在校生諸君におかれましても、勉強のみに余り一生懸命にならないで、各運動部を通して数多くの青春の思い出が作られる事を願ってやみません。(五七回・ラグビー部 高崎信用金庫東支店)

## OB間の交流を



副会長  
山口 正敏

母校を卒業して早二〇余年の歳月が流れてしまいました。悲喜こもごもの青春時代のページも、今改めて振り返って見れば、すべてが皆楽しい思い出として心の中に納められている様な気がします。また、その恵まれた自然環境の中での景色の移り変り……観音山の満開時

の桜の花々、校庭の色とりどりの薔薇の花々、黄金色の銀杏並木、そして古色蒼然とした講堂等は、特に忘れられぬ風景として深く印象に残っております。さて、翠巒体育会も早七周年を迎え、この度の役員改選に当り卓球部を代表して副会長を引き受ける事になりました。改めて会則を読んでみますと、まずOB間の親睦、次に未組織OB会の解消、母校運動部の後援と謳っております。第二の各OB会の組織化は、ほぼ昨年までで終了した様に思われます。第三の現役運動部の後援は、継続的な仕事なので、こ

れは毎年々々着実に実行されている様です。第一目標が多少遅れ勝ちの様に思われます。ざりとて、創立してより現在まで骨を折って来た役員の人達の努力は、大変なものであったろうと思います。今後は、その意志を尊重して創成期に築き上げて来た土台の上立って、会長を補佐して行きたいと思えます。特に、私の担当は事業部ですので、今までより以上に会員相互の交流親睦に重点を置き、出来るだけ多くの機会を作り各OB会の交流を図りたいと思えます。(五八回・卓球部 榎大陸不動産)

## 監査に就任して



監査  
大須賀正臣

高々運動部を後援し会員相互の親睦を図る事を目的として、昭和四九年五月設立された翠巒体育会も年々充実・発展し

ておりますが、この度の役員改選で監査という大役を担う事になりました。出来る限りのお手伝いをする所存ですので、会員の皆様のお力添えを是非お願い致します。私も高々時代は陸上競技に汗を流しましたが、その後教師として高校生の指導が続けられるのもこの時の影響によるものです。新聞等で母校の活躍を知る

に付け、当時の思い出が鮮明によみがえり、胸の熱くなるのを覚えます。どうかスポーツに熱き血潮を燃やしている現役の皆さん、最後までやり遂げて下さい。そして、会員の皆さんにおかれましては、現役の活躍を暖かく見守ると同時にこの会がますます発展する様にお互いに協力して行こうではありませんか。(五七回・陸上部 県立中央高校)

# 翠 巒 体 育 会 会 計 報 告

昭和五五年度



副会長 秋池 宗一郎 (六五回・水泳部)  
監査東 秀和 (五一回・応援部)  
監査大須賀 正臣 (五七回・陸上部)

### 支 出

摘 要	金額(円)	備 考
総 会 費	108.000	
役員 別 費	153.000	関東・全[国]大会 出場16部
運動部への補助費	11.250	25×450部
印刷費		
全校マラソン大会費	10.000	トロフィー6個
役員・理事会費	9.100	
事務局費	14.060	
機関誌費	300.000	
ゴルフ大会費	233.198	第2回 50000
慶 弔 費	30.000	第3回 183198
計	868.608	

### 収 入

摘 要	金額(円)	備 考
繰 越 金	170.119	
年 会 費	220.000	20000×11部
総 会 費	115.500	3500×33名
機関誌広告費	100.000	
ゴルフ大会費	205.000	第3回 5000×41名
寄 付 金	140.000	
利 息	5.631	
計	956.250	

差引残高 87,642円

# OB会の活動



## 翠樹サッカークラブ

### サッカー部

赤羽 英光

翠樹サッカークラブも発足以来、早九年となりました。当初より群馬リーグに参加しておりますが、いまだ三部リーグを抜け出せない状況です。しかし、昨春には国峯賢一・清野哲雄・高橋義昭・原田内二君(七四回)が帰省し、今春は山賀良彦君(七三回)、久保田芽君(七四回)、新野善永・西川正道君(七五回)、山越正弘君(七六回)が帰省予定であり、また永年一部リーグの群馬教員で活躍された時田和典氏(七一回)も今年からは翠樹クラブに加わる事になり、かなりチーム力も増強され今年こそは二部リーグへ昇格しようと意気も上がっている昨今です。

さて、簡単に昭和五五年度の戦績を挙げてみます。

### ◇群馬三部リーグ (五五・四一六)

- 翠樹12——0 電々高崎
  - 翠樹4——0 日本電子
  - 翠樹8——0 丸善薬品
  - 翠樹0——1 市光工業
  - 翠樹5——0 藤岡クラブ
  - 翠樹4——1 伊勢崎クラブ
  - 翠樹3——1 高藤クラブ
- 二位  
 ◇天皇杯県予選 (五五・四一七)

- 翠樹0——0 桐生市役所 P K 勝 一回戦
  - 翠樹0——1 群馬教員 二回戦
- ◇高崎市民大会 (五五・一〇)

- 翠樹1——1 原研高崎 P K 勝 一回戦
  - 翠樹8——1 高崎市役所 二回戦
  - 翠樹11——1 高崎四十雀 準決勝
  - 翠樹2——1 高藤クラブ 決勝
- ◇県選手権 (五六・一一二)

- 翠樹4——0 市光工業 一回戦
  - 翠樹3——0 妙義クラブ 二回戦
  - 翠樹1——4 新島クラブ 三回戦
- ◇高崎市社会人リーグ(五六・二一五)

- 翠樹5——0 高藤クラブ
  - 翠樹——不戦勝——沖電気
  - 翠樹7——1 丸善薬品
  - 翠樹0——0 原研高崎
  - 翠樹4——0 高工OB 準決勝
  - 翠樹4——3 高崎市役所 決勝
- (翠樹二二戦一八勝三敗一分)

この様に、年間試合数も二〇余をこなして、チームとしての活動は比較的盛んに行われている次第です。また、近年高崎商業高校・高崎工業高校等の高校OBチームも出て、中でも高商OBは後発チームにもかかわらず今年是一部リーグに昇格し、我々老舗翠樹サッカークラブもかなり刺激されています。

最後に、いつの日か、我々翠樹サッカークラブに限らず、翠樹体育会の各OB会の活躍が上毛新聞のスポーツ欄を飾る

日が来る事を願いたいものです。

(七三回 三共電器(株)八斗島工場)

## OB大活躍

### 柔道部

東瀬 朝紀

昭和五四年夏、翠樹体育会第一回ゴルフ大会が各OB会の代表多数参加して盛大に行われましたが、その中でも柔道部OBの活躍は目覚しく各部門において大勝利を収めました。柔道部OBの出場者及び成績は次の通りです。

- 団体優勝 柔道部
  - 個人優勝 生方将夫(五六回)
  - ベスグロ一位 有賀 明(五四回)
  - 二位 藤崎 裕(五四回)
  - 三位 冬木金雄(五四回)
- その他の出場者

- 須藤裕久(五三回)
- 沼賀勝平(五五回)
- 木暮 豊(五六回)
- 桜井 弘(五六回)
- 勝俣 務(五七回)
- 藤原陸男(六〇回)

今年の新年会は、例年通り一月三日に小香女(高崎市旭町)で開かれました。今井孝造先生(現富岡高校)・江原隆起先生(保健体育科)をお招きし、多数のOBが集まり、現役諸君を交えて、盛大なうちに終りました。また新年会に先立ち、高々柔道場において、OB対現役戦が行われました。残念ながら一・二回戦共にOBに凱歌が上がり、現役諸君の今一層の頑張りを期待したいと思います。

## OB会だより

### 水泳部

秋池 宗一郎

昭和五五年の水泳部OBの活動は、現役に同調して、例年になく活発でありました。OB会を開くと一五・二〇名の参加があり、年会費も集りが良く会計を喜ばせました。以下、活動記録を列記します。

- 一・二五 新年会：洛楽
- 六・一〇 田胡吉明会長(五四回)の快気祝：岡源
- 七・七 夏季合宿激励：翠樹会館
- 八・九 翠樹体育会第七回総会に代表出席：タカシマヤローズ
- 一〇・一四 ゴルフコンペ
- 一一・三〇 翠樹体育会第二回ゴルフ大会に代表参加
- 一二・一二 忘年会：洛楽
- (六五回 両毛繊維(株)) トリッククラブ

なお、田淵吉二君(七三回・渋川工業高校)が、昭和五五年度県選手権大会において並み居る強豪を撃破し初優勝をなし遂げ、関東選手権大会兼全日本選手権大会関東予選に出場しました。惜しくも全国大会出場はなりませんでしたが、田淵君の活躍は沈滞気味の柔道部に活を入れ現役諸君の励みとなった事でありましょう。(六九回 東瀬司法書士事務所)



### 組織の強化と協力を

#### 応援部

下田 茂夫

——野球部が頑張ったね。俺達の長い間の夢を果してくれたな。春には甲子園に行くぞ。応援するぞ——と張り切っている同窓生が沢山います。無心で頑張ってくれと祈りながら必ずテレビに写し出される応援風景の事を考えると、応援部OBも落ち着いていられません。

応援部が創部して、今年は丁度三〇年になります。OB会が発足し数年を経過して会員も一〇〇名に達しております。しかし現在の活動状況は、年会費の納入不十分で、翠櫛体育会の負担金及び現役の合宿と野球の夏季大会の時にOB会としてささやかな補助をしている位です。通信費の占める比率も大きく、苦しい台所状態で、活動も充分とはいえませんが頑張っています。昨年八月の翠櫛体育会第一回ゴルフ大会には、加藤進弘(五〇回)・早川弘(五七回)・荒木厚生(六〇回)・斎藤宏明(六〇回)の四氏でチームを作り、部対抗に出場しました。次第に親睦も深まり良き友人となつていますが、更に多くの会員諸兄と親睦を深めたいと思つています。

この会を今後更に活発なものにするには、会員相互の親睦を図ると共に、会員各自が母校や現役を愛し学業にも運動にも先輩に勝る活躍を期待して出来るだけの物心両面の援助を惜しまないという気持ちにならなくてはいけないと思つています。また、私達には、その責任があると思つ

ます。そして、春の大会を頭において現在の応援部の事を考えてみると、色々な問題があり、準備しなくてはならないものが多数ある事に気が付きます。今こそ応援部顧問を中心にして、色々と相談し皆さんの英知を結集する必要が生じて来ました。一人でも多く参加して協力し合つて行く中で、組織は強くなり、連帯の輪は大きく広がるでしょう。微力ながら、会員の協力を期待して春を迎え様かとして現状です。

(五〇回 高崎工業高校)

### OB会の方向

#### 陸上部

大田部 保

陸上競技部OB会は、結成以来早いもので六年目を迎えました。この間、新OBも二〇余名を数え、監督も小林馨先生から滝沢武司先生(保健体育科)にバトナタッチされました。高崎女子高校に移られた小林先生の指導力も定評がありましたが、滝沢先生は一見優しそうですが内に秘めた闘志と粘り強い性格での熱意あふれる懇切な指導振りは部員の信頼を集めております。前任の富岡高校では岩井寿史・高橋紀章・阪本孝男等の現在の日本陸上競技界を背負つて立つ第一線アスリート達を育て、次いで高々陸上競技部を手懸けてから三年、当に脂が乗つて来た所です。現在の部員数三六名は高々陸上競技部始まって以来の大世帯であり、全国高校総体において永井正樹(三年)が一〇Mジュニアハードル四位入賞と

いう快挙をなし遂げた事はその成果といえるでしょう。輝かしい高崎中学校時代はとにかく、高々陸上競技部の歴史でインターハイ入賞というのは画期的な事なのです。

ところで、現在のOB会は、高々に入つてからのもので、高中時代の方達は入つておりません。「翠櫛体育」第七号に寄稿して頂いた田島辰次先生(三四回)、先頃その陸上競技生活を本に著された坂東勇先生(三六回)など、高中が生んだ名アスリートの方達は多士済々です。団体競技に比べ陸上競技の様な個人スポーツは、学校卒業後とかく結び付きが弱く、年一回のOB会総会ももう一つ集りが悪くて、OB会としてはそのまわりに苦心させられます。次の総会までには、是非高中陸上競技部出身の方達を尋ね、名簿を作り、その方達に呼び掛けてオール陸上競技部OB会に発展させて行きたいと思つております。また過去の記録・成績なども調べて、部史なども追々にまとめて行く心算です。

こうした先輩達のバックアップにより現役達には更に一層の奮起を促し、OB会としても高々陸上競技部発展のためにより幅広い活動をしなければならぬと考えています。

(五二回 柳川町パーキング)

#### 「翠櫛体育」の題字

高々第二〇代校長中野敏宗先生(高崎市教育長)が、昭和五〇年、創刊に際し揮毫されたもの

昭和五四年

### 高々運動部活動状況

#### バスケット部

◇県総体・関東大会県予選(五四・五)

- 高々123 — 31西邑楽 二回戦
- 高々68 — 48桐生南 三回戦
- 高々71 — 60富岡 四回戦
- 高々70 — 60前橋 準決勝
- 高々81 — 66太田 決勝

◇関東大会 Aブロック

- 甲府市(五四・六)
- 高々56 — 19 25 神奈川・逗子開成 一回戦
- 高々56 — 33 24 49 東京・関東 二回戦
- 高々56 — 32 43 76 東京・関東 二回戦

◇全国総体県予選 (五四・六)

- 高々91 — 25藤岡 二回戦
- 高々114 — 52前橋育英 三回戦
- 高々114 — 75中之条 四回戦
- 高々65 — 62富岡 準決勝
- 高々77 — 92桐生工 決勝

◇強化大会 (五四・八)

- 高々93 — 56前橋工 二回戦
- 高々47 — 50館林 三回戦

◇新人大会・全国選抜大会県予選 (五四・一一)

- 高々52 — 38東農大二 二回戦
- 高々72 — 88中之条 三回戦



私が慶応義塾大学に入学してから、丸三年が過ぎ様とされている。私が慶大体育会バスケット部に入学したのは、何も能動的な理由があった訳ではない。高々で三年間バスケット部に籍を置き、三年生の夏にはインターハイにも出場し、たまたま慶大からセレクションの案内が来

大学のキャンパスから 1

大学スポーツの勧め

関 野 誠



たからそれを受け受験したら合格したというだけのことである。

三月末、初めて慶大の練習に参加した私は、「これはいかん」と思った。大学の選手達は、予想以上に長身で、技術的にも体力的にも優れ、到底私ごときの太刀打ち出来る相手ではなかった。また、

自由でおおらかな高々運動部と異なり、封建的で上級生からの圧力は大変なものであった。一年生の頃は、何度となくもうやめてしまおうと思つたものである。しかしつらく苦しい一年間を耐え忍んでしまつと、部の雰囲気にも慣れ、上級生の圧力も軽くなる。それに、自分自身、今更一般学生にはなれないという意識が出来てしまふものである。そして、私も今年是最上級生になる。

大学の運動部といつても様々である。スポーツオンリー人間を集めた強力チームもあれば、クラブチームまがいの弱小チームもある。そんな中で私のチームは、両者の中間にあり、しかもかなり強いという意味では良い状態といえよう。いわば私は、運動を本分とし、他の学生だつてそう勉強している訳ではないという開き直りの中に生きているのである。遊ぼうと思えば一年三六五日遊べる様な大学生活の中で、二〇歳過ぎにもなつて叱咤されながらも毎日練習に励んでいるのもバスケットを好きならばこそである。また、学生でもなければこんなことは出来るものでもあるまい。

これから大学へ入ろうとして受験勉強に日夜励んでいる人達は、大学に入つてから何をしようと思つているだろうか。理科系に進学する者は一応の勉強の必要もあろうが、文科系に進学する者はしなければならないことが全くといってない程なのである。猛烈な受験体制から突然その様な状態にほうり込まれると、何と

なく虚脱状態になつてしまふ。そのまま安逸に時を過ぎていたら、四年間が何もしない内に過ぎ去つてしまつたなどということにも成り兼ねまい。そこで、もし本当にスポーツが好きならば、体育会に入つて自分の力を試してみるのがいいのではあるまいか。私は必ずしも自主的に入学したとはいえないが、自主的に入学して来た人達の話の聞くと、ただ安穩に日々を送つていては良くないとか、一度同好会に入部したがどうも物足りないと感じて入部したそうである。

私はスポーツに関して精神論・根性論を説くのは余り好きになれないが、厳しい練習を通して不可能を可能にして行く姿勢を得られること、同級生はもちろん上級生・下級生とも打算抜き交友関係を作つて行くことが出来るなど、同好会とは一線を画するに足るものがあるであろう。また最近の傾向として、運動部員は就職がいいという理由で入部しようとする者がいるかも知れない。しかし、ある教授は「三日に一度勉強すれば大概の会社に入れる」といふし、そんな考えで続けて行けるかどうかには疑問があるが、もし続けられるならまたそれも良しとしてよいではないか。

(七七回・バスケット部)

慶応義塾大学商学部三年)



昭和五十四年度 高々運動部活動状況

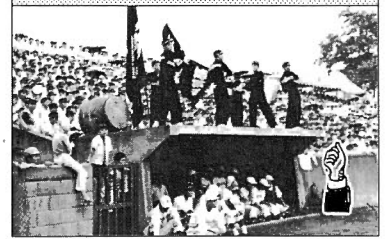
水泳部 I

◇関東大会県予選 (五四・七)

- 一〇〇M自由形 齊藤政宏(二年) 1分00秒8 二位
- 二〇〇M自由形 齊藤政宏(二年) 2分19秒7 三位
- 一〇〇Mバタフライ 糸井良弘(三年) 1分12秒1 三位
- 二〇〇Mバタフライ 糸井良弘(三年) 2分53秒3 二位
- 一〇〇M背泳 都筑秀明(二年) 1分18秒0 一位
- 石田鉄光(三年) 1分18秒1 二位
- 松井高志(一年) 1分18秒4 三位
- 二〇〇M背泳 松井高志(一年) 2分49秒1 二位
- 都筑秀明(二年) 2分49秒3 三位
- 四〇〇M個人メドレー 石井晋也(一年) 6分47秒3 三位
- 四〇〇Mリレー 高々(齊藤・松井・糸井・石田) 4分20秒1 二位
- 八〇〇Mリレー 高々(石田・松井・糸井・齊藤) 9分54秒8 三位
- 四〇〇Mメドレーリレー 高々(石田・山岸・糸井・齊藤) 4分53秒2 一位

— 応 援 部 —

青春の絆 5



応援部誕生の頃

下田 茂夫

昭和二五年五月頃、前橋高校との定期戦を控え、全生徒でエールの練習をする事になりました。前年は壮行会などの時は山田富二氏(四九回)がリーダーを務め大変上手で堂々としていたものでしたが、私達三年生の中からはどうも適任者がいません。「よし、それならやってみるか」と突然前に行き行ったのが私で、結局、お前がやれという事になってしまいました。その後、教室で級友に大変冷かされ自分でも恥しかった事を今でも思い出します。

昭和二四年夏の野球部は北関東大会で甲子園に後一步という所で茨城・水戸商業高校に敗れましたが、早稲田大学応援部の福田正一氏(四六回)がリーダーで毎日応援に行った私達に大学の応援を経験させてくれました。翌二五年夏の大会が迫った六月下旬、内藤由己男校長(一六代)から統制のある学生らしい応援が

出来る様に応援部を作らないかという話があり、有志を募り一〇数名が集まりましたので福田先輩から指導を受け早稲田式の技術を伝授されました。護国神社の土手をスタンドに見立て、号令調整は乗附の田圃に向かって完全に覚えるまで必死になりました。応援旗の図案は美術部の阪本和雄君(五〇回)に頼み、昔の校旗の棒に合せてキヤラコに染めた小さなものでした。腕章は、やはり阪本君にエビ茶の布に応援部と白く書いてもらいました。更に、「敵愾いかに」の応援歌は、一回戦の当日、球場で歌詞を配り練習したと記憶しています。服装は学生服という約束でしたが、学生服を着用したのは私だけでした。夏の応援に学生服を着たのは、私が県下で最初だったかも知れません。

一回戦の相手は前高でした。県下唯一のプラスバンドの協力で多数の在校生やOBが応援に集まり最後まで一体になって声援を送り、試合には敗れましたが、当時としては異色の新鮮味ある応援が出来たと思います。翌日の新聞に、応援は高校生らしく日頃の訓育のたまものだろうという表現でほめられていたと後日友人から聞きました。

この年は、バレーやバスケットの大会にも応援に出掛けました。前高体育館での国体出場を懸けたバスケットの決勝戦で、高々が常に前高にリードされや々と延長に持ち込んだタイムの時間に、周囲から「やろう、やろう」という声が起こり、私はコートに押し出され拍手だのエールだのをやってしまいました。この時、高

々に声援を送っていた他校生までが参加して、何だか大変な熱気を感じました。この願いが選手に通じたか、延長戦残り一五秒を切った時に放った石井宏君(五〇回)のシュートが奇跡的にゴールした直後に試合終了となり、一点差で勝ちました。応援で勝ったとか、選手に有難うといわれて、非常な満足感を味わいました。

応援部の在り方についての私の考えは、当時から現在まで変わっておりません。普段は目立つ必要はないが、必要な時にさつと現れて、全体を指導し全体の統制を

第三二回全国高校野球選手権 県予選 (S二五・七)



長滝久雄(50) 松田(向井)照晃(51) 東 秀和(51)  
志村 昭(50) 吉川公朗(50) 岡田 進(50) 吉井公治(50)  
川島 博(50) 坂本和雄(50) 金井英武(50) 下田茂夫(50) 山口治夫(50)

執り、学生らしく意気を示し声援を送る事が出来る様にするのが役目です。学生以外のOBや一般の人達も自分達と一緒に声援が送れる様に、我々が工夫し心を配らなくてはいけないと考えています。

終戦後の混乱期からや々と新制高校が歩き出した当時の高々生は、物質的には不自由な環境の中で、事あるごとに互いに肩を組み合い『翠巒』を歌いながら連帯感を確かめ合い意気を高めて頑張っていた様に思います。それが、当時の学校の指導方針の一つだったのでしょいか。殊に東秀和君(五一回)は、校舎の焼跡の整理作業の後、毎日放課前には全員で『翠巒』を歌ったので焼け残った教卓の上でリードを執ったという事です。誕生の頃は生徒会に属していた応援部も、その後、新聞部に属しそして独立するという歩みを経て三〇年を経過し、OB会員は一〇〇名を数える事が出来ます。

部の歩みを考えると、改めて『翠巒』には、各人各様の青春が込められており懐かしさや愛着が非常に強い事が分ります。しかし、新しい校歌が出来て既に二〇年経過し、若い人達にはこの校歌にも数々の青春の思い出があるでしょう。今、野球部の諸君が、甲子園の夢を現実のものにしてくれそうです。私達OBも、現役の諸君と一緒に、『翠巒』と『セルリアンブルー』を声高らかに歌おうではありませんか。

(五〇回 県立高崎工業高校) カットの写真

第三九回全国高校野球選手権 県予選 (S三二・七)

應 援 部

青春の絆 5



我が青春 応援部時代

横堀 勇夫

若き血に燃えた熱血時代の夢がいま目前に……。我が青春——高々応援部思い出の記」を書く時に、前後して入って来た朗報「高々、選抜出場ほぼ確実」に接して、まずはおめでとう……。惜しみない拍手を高々ナインに贈らせてもらえる事を心から喜んでいきます。正式決定までなお精進を重ね一層力強いキトムになる様に、陰ながら応援したいと思えます。さて、「我が青春——応援部時代」を書けと指名されています。筆を走らせているが何分二〇数年前の事なので記憶違いの部分もあるかも知れませんが、私なりに感じた思いを記してみたいと思います。

「エネルギーを燃焼させた三年間。素晴らしい友に恵まれた三年間。応援部の力で甲子場出場を……の夢を抱き続けた三年間」。こんな思い出がいまの私には残っています。

私が在校した昭和三〇年四月から三三

年三月は、ラグビー・野球・バレー・テニスなどが強く、ラグビーは団体優勝をした様に記憶しています。その様な三年間だったので、応援部の練習も実際の活動も活発でした。放課後の練習では、護国神社の境内や観音山で声を張り上げての発声練習もやりました。また、全校的な応援練習を講堂（現剣道教室）でやる時などは、一人でも多く参加する様に。若気の至りか校門前で野球のバットを持ち帰ろうとする生徒を引きもどした記憶も残っています。これもひとえに、当時の気持としては、応援部を良くし、運動部を強くし、母校を愛する青春のエネルギーのはけ口だったのでしよう。そうして練習をし汗を流しての帰り道に、良き仲間と一緒に肩を組み、辺り一面田圃の中に走る乗附の砂利道を、「上州の三つの山は……」。翠巒影を浮かべては……や「北上夜曲」を歌いながら、青春の一日を終える日も度々ありました。

私自身、野球が好きだったせいか、どうも野球の応援の思い出が一番多く残っている様に思えます。城南球場での応援、敷島球場での応援、栃木県営球場での応援……。勝って泣き、負けて泣くという様に、純粹な青春の気持をそのまま応援にぶつけて来た様に思えます。私が三年の時の野球部は強く、夏の大会県予選で富岡高校を破り優勝しました。私のアルバムに、「応援こそ高々野球部優勝の原動力だ」なる一文が記してあります。意気を感じていた証左だろうと思えます。確か、この夏の北関東大会——当時は群馬・栃木・茨城の三県で争い優勝チームが

オーストリア国家検定スキー教師  
万座スキー学校長

黒 岩 達 介(五二回)

吾妻郡嬭恋村 万座温泉  
電話〇二七九九(七)二七五二

甲子園への出場権を獲得——決勝戦で破れ無念の涙をのんだと記憶しています。いま私は当時のアルバムを見ながら筆を執っているのですが、整然とした現代の応援に比べれば「月とすっぽん」の遠い程きごちない応援でした。けれども、私の燃える情熱は、形よりも純な心だったのでしよう。ひたすらに、一途に、応援をして青春を昇華した事は私の高校時代の大きな思い出の一コマです。

体も心も若い青春時代は二度と来ません。勉強に打ち込むのもよし、スポーツに打ち込むのもよし、応援活動に打ち込むのもよし。「文武両道」を掲げる高々の同窓生として感じる事は、「智力・体力・気力」の充実を目指して高々三年間を送って来た心算の私でしたが、残念ながら「智力」は努力不足で伴いませんでした。しかし、良き校風、良き師、良き友に恵まれての三年間の高々生活は、私の大きな財産となつて今日も根強く躍動しています。この財産を生んでくれた母校に、微力ながら永遠に応援を続けて行きたいと思えます。母校の一層の発展を祈念してやみません。

(五七回 東京電波新聞社)

昭和五四年年度  
高々運動部活動状況

水泳部 II

◇関東大会・全国総体関東予選  
宇都宮市(五四・七)

- 一〇〇M自由形 59秒11 (落)
- 齊藤政宏(二年)
- 二〇〇M自由形 2分16秒53 (落)
- 齊藤政宏(二年)
- 一〇〇Mバタフライ 1分13秒61 (落)
- 糸井良弘(三年)
- 二〇〇Mバタフライ 2分57秒14 (落)
- 糸井良弘(三年)
- 一〇〇M背泳 1分16秒08 (落)
- 松井高志(二年)
- 石田鉄光(三年) 1分17秒81 (落)
- 都筑秀明(二年) 1分20秒00 (落)
- 二〇〇M背泳 2分46秒38 (落)
- 松井高志(二年)
- 都筑秀明(二年) 2分52秒40 (落)
- 四〇〇M個人メドレー 6分30秒33 (落)
- 石井晋也(二年)
- 四〇〇Mリレー 4分17秒88 (落)
- 高々(齊藤・糸井・石田・松井)
- 八〇〇Mリレー 9分46秒91 (落)
- 高々(齊藤・糸井・石田・松井)
- 四〇〇Mメドレーリレー 9分46秒91 (落)
- 高々(石田・山岸・糸井・齊藤)

フリー フリー 高々

佐藤 隆志

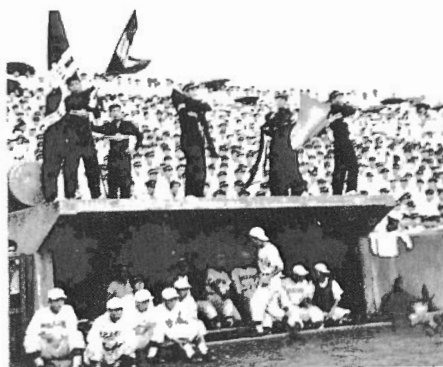
—翠巒影を浮かべては 流水長き思
いあり—。世の中は時の移り変りに合
せて幾百・幾千という歌はらんらんし
て、私も飲屋のカラオケで蛩声を張り
上げている今日この頃であるが、三年間
大いに歌った母校の応援歌『翠巒』に勝
る歌にはまだ出会っていない。昭和三
六年以後、東京・岡山・神奈川と住居が
変り二〇年間に高崎を留守にしている私
には、当時の記憶も薄らいでいるが、応
援部OB会の下田茂夫会長(五〇回)と
同期の荒木厚生君よりの原稿依頼には、
仕事の外に組合執行委員長の多忙さをつ
い忘れ引き受けた次第である。乏しい記
憶をたどりながら、ペンを走らせてみた
い。

当時の応援部は、独自の部室が無く、
なぜか新聞部と同室であった。中学校時
代応援部を経験していた私は、入学と同
時に入部した。部室には常に一〇から一
五名程たむろしており、それは毎日にな
りやかでかつ楽しいものであった。練習は
毎日放課後、護国神社に集合し、正面に
赤城山を仰ぎ現在の半分程度のグラウン
ドに向かって大声を張り上げていたもの
である。「のどから声を出すな、腹から
声を出せ!」、「可能な限り発声を長く続
ける!」と先輩達に励まされた。身
体をやや反り身にして、一時間も二時間
も練習を続けたものであった。当時の護
国神社から見る景色は、現在とは隔世の
感があり、烏川の土手まで人家はほとん

ど無く、四季の移り変りによる自然の変
化が練習の疲れを吹き飛ばしてくれた。
特に、秋の紅葉で全山ピンク色に染まっ
た赤城の姿は、今でも鮮明に脳裏に焼き
付いている。また練習の後、空腹を満た
したパンと牛乳、神社でのソフトボール
尽きぬ話に時の経つのも忘れた事など皆
楽しい思い出である。

我々が応援部に籍を置いた昭和三三
年から三五年頃は、野球部の活躍は余
り見る所は無く県大会も精々一勝か二
勝止り。しかし今考えてみると、強い弱
いを意識して護国神社や講堂(現剣道教
室)で練習した事は一度も無く、城南や
敷島球場では精一杯応援した事のみがよ
みがえって来る。スポーツ新聞によると
今年の野球部は、秋の関東大会で見事準
優勝に輝いたとの事。いよいよ念願の甲
子園の切符を手にし青ランプがともった
ので、毎年テレビを横目で観戦から、
来年こそ正面切って大声で応援が出来る
かと思うと今から心が踊る様だ。

応援部というのは一見華やかなものと
思われ勝ちだが、私は決してその様には
考えていない。選手と応援者の気持を盛
り上げ一致させるための仲介者の役であ
り、時には勝利へ導くための案内人であ
って、常に縁の下の力持にとどまるべき
だと思ふ。同時に、大いにリーダーシッ
プも発揮すべきであると思ふ。数年前、
先輩達の努力でOB会が発足し参加させ
てもらった時、初対面の先輩・後輩と前
日でも会っていた様な気持になったのは私
一人ではなかったと思う。常に一人だけ
が目立つのではなく、皆の力で大きな目



第39回全国高校野球選手権
県予選 (S32・7)

的を築き上げる真摯な気持を応援部の連
中は養われ身に付けて来たのである。
OB会名簿を開いて見ると、懐かしい
友人の名前が載っている。荒木君・松田
典也君・丸山功一君・安松保彦君、地元
で頑張っている様だね。石井勉君・野滝
英昭君、消息を聞かせて欲しい。久し振
りに皆で会って積る話をしたものだ。
あのころの多感な青春時代は過去のもの
となっているが、炎天下で一緒に応援部
で活躍した仲間が集えば、二〇年間のタ
イムトンネルはすぐ当時にもどる事だろ
う。

最後に、応援部も翠巒体育会の一員と
なった今、体育会の皆様のますますの御
健勝と、現役応援部の活躍を心から願っ
てやまない。

カットの写真

第三九回全国高校野球選手権

県予選 (S32・七)

◇県総体

一〇〇M自由形	4分55秒02 (落)
齊藤政宏(二年)	得点42・三位
二〇〇M自由形	(五四・八)
齊藤政宏(二年)	58秒6 二位
一五〇〇M自由形	<大会新>
石井晋也(一年)	2分18秒9 三位
一〇〇M平泳	23分18秒6 六位
原田文明(二年)	1分21秒6 四位
二〇〇M平泳	3分00秒5 三位
原田文明(二年)	1分12秒1 四位
一〇〇Mバタフライ	2分59秒6 六位
糸井良弘(三年)	1分16秒4 二位
二〇〇Mバタフライ	1分18秒8 五位
糸井良弘(三年)	2分52秒8 五位
一〇〇M背泳	6分54秒9 六位
石田鉄光(三年)	4分50秒7 二位
都筑秀明(二年)	4分19秒9 四位
都筑秀明(二年)	9分52秒6 四位
二〇〇M背泳	
都筑秀明(二年)	
四〇〇M個人メドレー	
三浦康司(一年)	
四〇〇Mメドレーリレー	
高々(石田・糸井・原田・齊藤)	
四〇〇Mリレー	
高々(石井・糸井・齊藤・石田)	
八〇〇Mリレー	
高々(石井・糸井・石田・齊藤)	

応 援 部

青春の絆 5



応援部随想

小板橋 謙三

私と応援部の出会いは、入学早々にあった各部紹介の場で部員に声を掛けられた時である。氏名とクラスを聞かれ、「これは偉い部につかまったものだ」という気がした。というのは、当時、新聞紙上などで大学の応援団の不祥事がかなり大きく取り上げられており、一五歳の少年としては非常に不安を持ったのである。数日後、通学電車の中で、その声を掛けて来た清水守さん(七〇回)にばったり会い、もうダメダと思ひ、応援部のとびらをたたく事になったのである。その時、新入部員は八木薫と私の二名で、三年三名・二年八名の総勢一三名だった。

第一印象は、部室の汚なかつた事で、男子校とはいえかなりのものであった。入部してからは応援部に対して持っていた不安は解消されたが、今度は練習内容に驚かされた。練習はてつきり学生服でやるものと思っていた私は、「明日から

運動着を持って来い」といわれた時には訳が分らなかつた。ただ大声を出すだけが応援部の練習と思つていたので、腕立伏せ・腹筋・持久走・ウサギ跳びといったものが練習内容に組み込まれているのには参つた。元来この類のものには不得手であり、発声練習で声はガラガラ、おまけに体力作りで身体中痛くなる。応援部でなぜこんな事までしなくてはならないのかとしきりに思つた。練習は、護国神社境内の東端を使わせてもらひ、高台から高崎の町並を眺めながら毎日大声というか嗷声を張り上げていた。神社で結婚式がある時には、こちらとしても遠慮勝ちに声を出すのであるが、それでもうるさいとみえ、何度かお小言を頂いた。華燭の典の当事者とすれば、随分と迷惑な事であつたらう。

部の活動は、翠巒祭での「リーグ公開祭」と野球部の夏の大会の応援が大きな柱であつた。

日頃の練習の成果を見せるリーグ祭では、諸先輩や各校応援部に案内状を送り、観客もかなりの数が集まり女子高生姿などもあつて、随分張り切つて演じたものであつた。後日談になるが、この観客数は、翠巒祭実行委員の話によると、我々の後のプログラムが目玉商品の「紅白歌合戦」になつておりその座席確保のために一つ前の応援部を見ているという事であつた。しかし我々部員は、応援部の雄姿を見に来ているものと信じて疑わなかつたのである。

夏の大会では、応援部も他の生徒も熱くなつた。大会間近になると、クラスの

群総建設株式会社

代表取締役

古 関

武(五二回)

高崎市大橋町二〇〇  
電話〇二七三(二三)一四六四

仲間を練習に引つ張つて来たりで部員が倍増する。炎天下に、敷島で、城南で、甲子園目指して、声で身体で応援するのは心地よいものがあつた。

合宿も、今では良き思い出となつてゐる。今こそ翠巒会館という立派な建物があるが、当時は木造の今にも倒れんばかりの合宿所であつた。食事もすべて自炊であつた。春休の一週間程であるが、こわい先輩が入れ替り立ち替りやつて来ては手取り足取りの指導であつた。食事当番に当たると、早目に練習が切り上げられるので、ホットしたものである。

高々の三年間は応援部と共にあつた。「翠巒影を浮かべては……」、「上州の三つの山は遙かにかすみ……」。何十回となく口にしたこの歌を、甲子園のアルプススタンドで歌いたいと思ひ続けていた。

下田茂夫OB会長(五〇回)から原稿依頼を受けた数日後、秋季関東大会にて高々が準優勝し選抜大会出場が確定的になつた。桜の咲く頃には、積年の夢が実現しそうである。

(七一回)

群馬県労働金庫富岡出張所)

昭和五四年度

高々運動部活動状況

水泳部 III

◆全国総体

彦根市(五四・八)

一〇〇M自由形

斉藤政宏(二年)

1分00秒89 (落)

◆新人大会

(五四・八)

一〇〇M自由形

斉藤政宏(二年)

1分01秒2 一位

一五〇〇M自由形

石井晋也(一年)

24分57秒8 三位

一〇〇M平泳

原田文明(二年)

1分23秒0 二位

二〇〇M平泳

原田文明(二年)

3分04秒8 二位

一〇〇M背泳

松井高志(一年)

1分17秒8 三位

二〇〇M背泳

松井高志(一年)

2分51秒3 一位

都筑秀明(二年)

2分57秒6 三位

四〇〇M個人メドレー

三浦康司(一年)

7分01秒8 二位

松本貴行(一年)

7分06秒1 三位

四〇〇Mリレー

高々(原田・松井・石井・斉藤)

4分34秒8 二位

八〇〇Mリレー

高々(石井・斉藤・松井・都筑)

10分25秒9 二位

四〇〇Mメドレーリレー

高々(都筑・原田・斉藤・松井)

### 応援の心

小板橋 正人

私は、高々に入學するまで応援部など全然知らなかったし、また中学校では応援される側の野球部だったので、何かびんと来なかつた様に記憶している。そんな私が応援に急激に引かれ始めたのは、各部紹介の時の応援部によるリーダー公開であった。体が余り大きくない私は野球部に入るのを断念し、かといって性格上文化系サークルはいやだったので、心の迷いを生じていた私にとって新鮮な感激を覚えた。そして入部を決意し、その日から今まで、高校・大学と五年間の応援部生活が始まった。

もとより人前に出る事に余り抵抗がなく目立ちたがりやな私なので、全校生徒の前で『校歌』や『翠巒』を歌うのが楽しくて仕方がなく、色々な応援の型などを早く覚えたくて先輩がやっているのをひそかにまねてみたものである。夏の野球シーズンになると、臨時部員を集め、重い太鼓をリヤカーで城南球場まで運んだのが懐かし、初めて一試合応援した時は最後まで腕が上がり大変苦しかった。しかし、勝つと自分の事の様に喜び、つぶれた声を振り絞り『翠巒』を歌い、高々の数え歌ではないがいつも甲子園を夢見て炎天下で青春の一駒を一喜一憂したものである。三年の時、私は部長を務め、野球部が木暮投手（現早稲田大学）を擁する桐生高校を倒してベスト4に進んだ時、ゾーン決勝の朝は護国神社に参拝し何が何んでも甲子園へ……と願った

が、小林均投手（七七回）の健闘むなし接戦の末に0-2で敗けてしまった。悔しさとこれで応援部を去らなくてはならない寂しさが込み上げて来たのが、昨日の様に感じられる。

しかし、私は自分なりに他の高々生より多彩な高校生活を送ったと信じているし、それが応援部にいたからこそ出来たと思っている。そんな私だから、世間の色々な批評の飛び交う大学の応援部、特に六大学へと考える様になった。また、その様な考え方を持つ布石として、応援部OBで足利工業大学応援団にいた星野守俊先輩（七二回）との出会があった。三年の時、招かれて足工大の団祭に出掛けたり、高崎経済大学の団長さんが星野先輩の友人である事から高経大の団祭も見学してレベルの差を痛感し、卒業したら自分も大学でと考える様になった。そして井田秀先輩（七六回）が早大応援部に入っているといううわさは、両親の反対もあつたが、私の意志を決定付けた。私は、早大受験に失敗し、明治大学に入り応援活動を始め二年近く経つたが、練習の厳しさ忙しさで自分の時間はほとんど無く、何度か挫折しそうになった。そんな時、いつも高校時代の決意と若しやめたら自分を応援に導きその礎たる役目を成した高々応援部にも傷を付けてしまふと思いつつ、何とかここまで続けて来た。

応援に対する考え方もかなり変つた。高校時代は、応援活動の目的など考えてもみなかったし、主に技術中心主義であつた。大学に入り、様々な人達との触れ

合いや諸活動を通し、応援部員は学生の模範でありリーダーであり、応援部が応援するのではなく、応援部は学生をリードし応援させる側であると思う様になつた。リーダーの技術は、その手段であり、例えどんなに上手くても学生を引き付けるテクニクがなければ何にもならないのである。また、暑くて自らが苦しいからといってそれを表に出してはリーダーとして失格である。日々の練習は、技術の向上だけでなく、苦しい時こそ明朗な前向きな姿勢でそれを打ち破る様な精神面の鍛錬も加味されなくてはならない。私は、高々の後輩に、リーダーの技術のみに固執する格好の良さばかり求めず、常に自分が緑の下の力持となり高々を支えて行くんだという気持を持つ事を望んでいる。また、応援部とは、様々な人間模様との触れ合いや諸活動を通しての人間形成の場であるという事を心に置き頑張ってもらいたいと思う。「ゆく川の流れば絶えずして、しかももとの水にあらず」、過去から現在へ、そして現在から良き未来へ、高々応援部が先人達の伝統を守りこれからも発展する事を私は信じている。

◆ 県選手権大会	5分08秒5	二位
一〇〇M自由形	(五四・九)	
齊藤政宏(二年)	59秒7	二位
二〇〇M自由形		
齊藤政宏(二年)	2分22秒9	六位
二〇〇M平泳		
原田文明(三年)	3分04秒3	五位
一〇〇M背泳		
松井高志(一年)	1分16秒9	六位
◆ 国体 少年A	宮崎市(五四・九)	
一〇〇M自由形		
齊藤政宏(二年)	59秒38	(落)
八〇〇Mリレー		
群馬(嶋田・齊藤・岡庭・平田)	8分38秒10	一位
◆ サッカー部		
◆ 県総体・関東大会県予選	(五四・五)	
高々0-1中央		
◆ 全国総体県予選	(五四・六)	
高々2-0新島学園	二回戦	
高々0-2前橋商	三回戦	
◆ 全国大会県予選	(五四・九) (一〇)	
西毛地区一次予選	(Aグループ三位)	
高々0-0新島学園		
高々0-3高崎商		
高々0-2富岡		
高々3-0藤岡工		
高々-不戦勝-甘楽農		
◆ 新人大会	(五五・一) (二)	
高々1-0桐生	一回戦	
高々2-2館林	PK負 二回戦	

#### カットの写真

第六〇回全国高校野球選手権

県予選 (S五三・七)

# OBの随想



高橋 三郎

## 監督の立場

長島の辞任、日本シリーズで八度目の挑戦に敗れた西本の悲運、王の引退、監督就任。最近、プロ野球の世界で、私にとり監督という立場について種々考えさせられることが相次いで起った。

監督を職業として飯を食っているプロ、学生スポーツの監督、レクリエーションとしての草野球やママさんバレーの監督などそれぞれに条件は異なるが、要するにやるからには「全責任は我にあり」という気持でやるべきだと私は思う。監督の意志は飽くまでも通し、責任の持てるチームを育てなくては面白くも何ともない。外から見た時に、監督の個性がありありと現れたチームを作るべきだろう。例えば、九人制バレーボールで基本となるオーバードパスのフォームが全員そろっているチームは、良く訓練された強いチームだと思うし、そのパスについ

ての全責任は監督にあると思う。更に徹底すれば、卒業生を毎年送り出しても、同じタイプ、同じ顔に見られる様なチームが出来れば最高であろう。

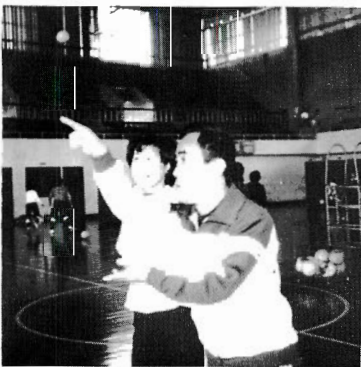
一方、選手は、監督に尊敬の念を持つて行ける者もあれば、ある場合は監督に反感を敵意を持って「こん畜生」と頑張る奴もあるかも知れない。特に学生の場合、日本ではスポーツと教育を直結して考える傾向が強いから、監督に対する風当たりも当然強くなるというもの。「スポーツは青春のすべてです」という奴、「好きだからやる」連中、また一方

では「高がスポーツ、三年間だけ遊ぶのさ」、と色々な考えを持った選手をまとめる監督はそれなりの覚悟を決めて掛かからねばならない。選手に対しては、思う様に行かなかつたり壁に突き当つたりした時に「監督やコーチが悪いから俺達は浮ばれないんだ、強くなれないんだと考えることは間違いだし卑怯だぞ」といいたい。反対に監督に対しては、「今年は良い選手に恵まれなかつたから勝てないんだ。あの時あの選手のミスさえなかつたら勝てたのになどと愚痴っては困る」といいたい。闘いは、チームの中からまず始まる。監督と選手は、どちらがやる気があるか、どちらの情熱が勝つかの根くらべだ。休まず進む以外に己に勝つ方法はない。これがつらかつたら、例えばママさんバレーの監督でもやるべきではないと思う。——むっとも、ある意味ではママさんの方が学生よりもはるかに難しい面もあることも事実だ。

監督は、全責任を負う。選手は、高が

スポーツじゃないかと最後には開き直る気持を持ちながらも全力を尽す。矛盾してたり馬鹿げていたりする面もあるが、何とかまとめて行く。監督とは、その様に孤独で、またそれだけに素晴らしい立場にあるのかも知れない。イエスマンのコーチを何人も従えてふんぞりかえる監督よりも、孤独で頑張る監督に私は魅力を感じる。

新聞で読んだ話だが、野球の試合で、リードして迎えた最終回の守備で投手が突然崩れ四球を連発した。監督は、タイムを取り、投手を呼び寄せ二言三言話したところ見事立ち直って勝利を収めた。後で記者があの時何といったのかと監督に尋ねたら、彼は笑いながら「高が野球じゃないか。命まで取られる訳じゃない。びくびくせずに投げろ」といったという。この監督は本当は、「高が野球」などという言葉とは裏腹に、物すごい勝負師であつたと思う。選手の性格、その時の状況をよくつかんでいたが故に、この一言でピンチを切り抜かれたのだと思う。監督稼業の妙味であろう。



ママさんバレーの指導 (S55・10)

# 昭和三十四年度 高々運動部活動状況

## 軟式庭球部

◇関東大会・県総体県予選 (五四・五)

個人

- 大竹敦之・原 敬 (二年) ベスト8
- 丸山昌弘・秦野和広 (二年) ベスト16
- 須藤昭利・森岡 直 (二年) ベスト16
- 松田 久・井田正弘 (二年) ベスト32

団体

- 高々3——0 桐生南 二回戦
- 高々2——0 富岡 三回戦
- 高々2——1 桐生工 四回戦
- 高々1——2 高崎商 決勝リーグ
- 高々1——2 東農大二
- 高々2——1 吉井 四位

◇関東大会

- 丸山昌弘 4 伊藤 熊谷市 (五四・六)
- 秦野和広 0 中橋 一回戦

(二年)

- 須藤昭利 0 鈴木 (山梨・中府第一)
- 森岡 直 4 保田 一回戦

(一年)

- 大竹敦之 3 川津 (東京・駒沢大)
- 原 敬 4 石嶋 一回戦

(三年)

- 丸山昌弘 0 田中 (神奈川・東海大相模)
- 秦野和広 4 須永 一回戦

(二年)

- ◇全国総体県予選 (東京・巢鴨)
- 個人 (五四・六)



金井繁次郎先生のこと

高々バレー部の初代監督となられた故  
金井繁次郎先生は、名監督であつたと私  
は信じている。専門は徒手体操であり、  
音楽にも秀でた温厚な方であり、そして  
情熱家であつた。

折を見ては高崎商業高校の菊地巳代吉先  
生を訪れバレーボールの勉強をされてい  
た様だつたが、我々部員には今日はこう  
いうことを教わつて来たからやつてみる  
などと決していわないで澄ましておられ  
る。ベンチに腰掛け煙草を吸いながら、  
ただ「頑張り」、「よし、そうだ」とか  
つを入れるだけ。俺も考えるからお前達  
も考えてプレーしろという態度だつた。  
当時やや御年配の、しかもバレーの専門  
家ではない監督として、自由放任型のこ  
のやり方は素晴らしい方法だつたと私は  
思う。

そして、練習が終ると一転して機会あ  
るごとに我々に教えられたことは、「本  
を読め」、「他人の意見を聴け」、「バ  
レーしか出来ない男になるな」という三  
点だつた。

「本」は、素晴らしい語掛けをしてく  
れるし、その人の貴重な人生を覚えるの  
だからこれ程安い物はないという主張で  
ある。当時余り勉強もせずにバレーボー  
ルばかりやつていた私にとっては痛い所  
を突かれた氣もしたが、氣が付いてみた  
ら学校帰りに本屋へ寄つて立読みをする  
習慣が付いていた。八千代橋を渡つて帰  
る日は立見屋・博石堂。聖石橋を渡つて

帰る日は文開堂・天華堂と友達と連れ立  
つて、一日置きに、あるいは空つ風の吹  
き具合によつてコースを変えて帰宅した  
ものだつた。

縁あつて高崎技芸高校（現在佐藤学園  
高校）のバレー部監督となつた時、私は  
徹底して「他人の意見」を聴くことに心  
掛けた。いや、「他人から盗んだ」とい  
うべきかも知れない。私が監督として練  
習をしている時は、先輩監督であつても  
練習が終るまでは意見をさしはさまずに  
最後まで私のやり方を見て頂き終つてか  
ら失札をわびて意見を伺う様にしていた。

もつとも、若かつた私のやる練習には殺  
氣があつて、途中で話し掛けられる様な  
雰囲気ではなかつたとよくいわれた。誰  
だつて真剣な聴手がある場合は、氣持良  
くしゃべつてくれる。まして酒でもくみ  
交しながらだつたらなおのこと、私のや  
り方をばろくそこにき下ろしたついでに  
自分の主義・主張をもさらけ出してくれ  
る。私は徹底して聴役に回り、一切を引  
つ張り出す。後の取捨選択は、私の自由  
だ。学校へ出入りの植木屋の親方や毎日  
リヤカーを引く手を止めて一時間も練習  
を見て行く引売八百屋のおじさんにも意  
見を聴くと、思わずはつとする岡目八目  
的な意見もあつた。しかも彼らは、俺の  
意見を聴いてくれたというだけで喜んで  
くれて、試合があると必ず応援に来てく  
れる素晴らしい理解者となつた。今の若  
い監督を見てみると、独り善がりやでや  
つてゐる方が多い様な氣がしてならない。  
更に向上するためには、もつと他人の意  
見を聴く度量が欲しい様な氣がする。

さて、金井先生の教訓の三番目につい  
て書いて終りにしよう。私の作ったチー  
ムは、全員で守り抜く守備とサーブのチ  
ームであつて、攻撃も432システムの  
四人の前衛のコンビ攻撃であり、全国大  
会でも平均身長で30m劣つていた。個々  
の選手はそれ程目立つ選手はいなかつた  
から、引く手あまたの糸偏会社の中から  
あえて新進の東レを選び出来るだけ選手  
を送つた。特に女性だつたが故に「バレ  
ー馬鹿」は作りたくなかつたから、一年  
や二年で辞められても困るがその会社で  
かわいがられても、「三年経つたら良い  
彼氏を見付けて結婚しろ」といい渡して  
送つた。彼女らは今、立派に結婚し母親  
となつた。

私も親父が死んでやむを得ずバレーボ  
ールから足を洗つたが、幸か不幸か、そ  
の後一五年程経つたらママさんバレーな  
るものが始まつた。私が教えた選手も、  
またあちこちでバレーボールを楽しんで  
いる。そして私も、引つ張り出されて現在  
に至つた——むしろ喜んでゐるかも知れ  
ない。今、私は、スポーツ教室で若いマ  
マさんと再びバレーボールに挑戦してい  
る。

——天国から金井先生の声が聞える。  
「馬鹿もん、お前はバレーしか出来ない  
男か!」

「ハイ、ドローモ、スイマセン」。  
（四八回・バレー部 荷鳥甚  
高崎市バレーボール協合理事長）



大竹敦之・原 敬（三年）ベスト16  
丸山昌弘・秦野和広（二年）ベスト16  
松田 久・井田正弘（三年）ベスト32  
中村孝雄・吉村 誠（二年）ベスト32  
団体 第2次予選  
高々3——0 桐生 一回戦  
高々1——2 高崎工 二回戦

◇一年生大会（五四・八）  
須藤昭利・森岡 直 一位

◇新人大会（五四・九）  
個人  
中村孝雄・小林 聡（二年）ベスト16  
須藤昭利・森岡 直（二年）ベスト16

団体  
高々3——0 伊勢崎工 二回戦  
高々2——0 榛名 二回戦  
高々1——2 高崎商 四回戦

硬式庭球同好会

◇県総体・関東大会県予選（五四・五）  
全国総体県予選

団体  
高々2——1 沼田 一回戦  
高々0——3 伊勢崎東 二回戦

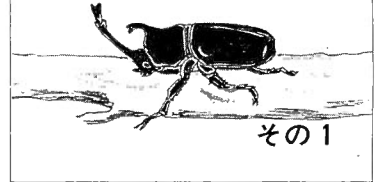
シングルス  
小池誠治（三年）ベスト8  
和田国明（三年）ベスト16

◇新人大会（五四・八）  
シングルス  
林 正和（二年）一位

ダブルス  
古島吉之・林 正和 ベスト8  
（二年）（一年）

卓 球 部

青春の絆 6



誇り高き空白の時代

小野里 晴雄

栄光ある高々卓球部史上に我々六人の同期生が遺した一頁は、多分「空白」ではないだろうか。特に成績面においては、自他共に認めるところである。しかし、この史上に遺る誇り高き「空白」の中で、通り過ぎた青春の一部は、恐らく充実していたはずだ。同期生六人とは、本格攻撃派の伊藤肇・遠藤晃と私、シエークの羽鳥修司、少し変則の笠原秀三・弦差修である。

練習は一生懸命した。夏季合宿には、恐ろしい先輩がやって来て、歩けなくなるまでしごかれた。私の入部以前、観音山階段のうさぎ跳びの上り・下りは、途中で逃げ出し二度と帰らない人もあったそうだ。しかし練習が終ると、先輩達は先輩面を捨てて打ち解けていた。率直にあって、先輩が先輩面しないというのは卓球部の良い伝統である。特に我々の場合、先輩面など出来るはずはなかった。

というのは、夏休前までは何とか一応先輩としての立場を守れるが、夏休が終ると新入部員がすごい勢いで伸びてたちまち同レベル、または正直にいつて一寸上なんて先輩が出て来たりする。負けると調子悪いと言訳し、勝つと当り前って顔した事も度々、全く精彩のない年代であった。

しかし、我々六人は、決して落ち込んではいなかった。そして、伊藤だけは、毅然と、キャプテンとして、実力も相当なものを持って、我々を後輩のあらしから守ってくれたのである。我々は、参加資格のある試合は片っ端から出場した。

ある時、長野・小諸市での試合に出掛けた。午前中にほとんど結着がついたのだが、一人遠藤だけが勝ち上がり、まあ勝ち上がりといってもそんな大それた位置でなく勝ち残った。そして次の相手は、何と当時群馬の高校ランキング一位、前橋商業高校の木原だった。どうせ負けるんだから棄権しようと思つたが、半端な半分、やっかみ半分で皆は帰りがたがった。しかし遠藤は、どうしても一位とやってみたくて、いい、到頭始まった。ところがこれが予想に反して好ゲーム、素晴らしいラリーの大熱戦になってしまった。我々は既に帰り仕度を終えて待っているというのに、こんな時に限って遠藤のやつ調子を出しやがって今日中に家へ帰れないといらいら。早く負けろの声を背に、思えば遠藤の一世一代のゲームではなかつたらうか。結果的には負けてしまったが、我々が気を大きく持ち友情に厚かつたら、遠藤はランキング一位をどうにかしていた

かも知れなかつた。今思うと、皆本気で練習した。だから、調子に乗ればもう少しましな成績も残せたかも知れない。羽鳥と私のダブルスも語草だが、話が長くなるのでやめる。弦巻は、お人よしで誰にでも好かれた。笠原も、当時エピソードの多い男だった。

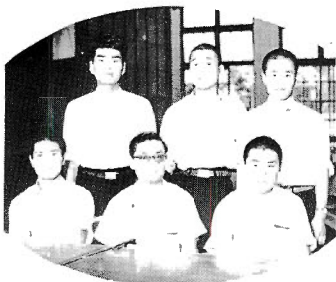
先輩、特に一年上の江原千昭さん(六二回)、そして強い後輩の諸君も、非常な忍耐力でうだつの上がらない我々を暖かく見守っていてくれたに違いない。だからこそ我々は、自由奔放に青春を謳歌出来たと思う。

我々が作った成績面での卓球部史上の「空白」は、我々の心の中で燦然と輝くモノUMENT。今でも遠藤・羽鳥と私は各々の下手さ加減をなじり合い、三人寄れば皆自分が一番強かつたと主張し合う愉快な友人だ。今度は是非六人寄って、一番強かつたのは誰かを語り合つて見たい。(六三回 小野里織物)

卒業記念アルバムから

卓球部五八回生

(S三三・九)



山口正敏 市川敏夫 佐賀 操 藤原政夫 松原純一先生 善如寺貞雄

昭和五四年 高々運動部活動状況

柔道部相撲班 I

◇県総体・関東大会県予選(五四・五) 団体 勝率5・勝点24

- 高々3 2富岡
高々4 1中之条
高々1 4東農大二
高々2 3勢多農林
高々5 0大間々
高々4 1樹徳
高々5 0桐生商

- 武井信生(三年) 一位
深沢 功(三年) 二位
三宅浩一(三年)
富岡誠一(一年)
田村 健(三年)
西山 功(三年)
高橋弘幸(二年)
村田宏光(二年)

- ◇関東大会 団体予選
高々0 5神奈川・むかの岡工業 勝率1・勝点4
高々1 4東京・国学院大久我山 一回戦
高々3 2栃木・栃木農業 二回戦
個人予選
高々3 2栃木・栃木農業 三回戦
軽量級

卓球との出会



吉田 健一

「翠樹体育」第七号の発行に当り、今回は卓球部が誌面を飾る事になり、私も卓球との出会を思い出してみました。

私が高々に入学したのは、昭和三八年です。校舎は現在の鉄筋ではなく古い木造でしたが、グラウンドは広く見通しが良かったのが頭に浮びます。

入学して何がしたいかといえば、それはスポーツでした。そして、校舎のあちこちに各部のポスターが張られているのを見ながら、卓球部のドアをたいたのでした。古くて立派な講堂が練習場になっており、奥に部屋がありました。講堂は広くしっかりと置かれており、六台もの卓球台がずらりと置いてあり、すごいなあと思いました。

世間では卓球ピンポンと考えられている様ですが、実際にはその運動量は非常に多く特に敏しう性を必要とし、根性を養うのも他のスポーツと同じです。

入部してからは、部室・練習場の掃除に始まり、先輩の練習のボール拾いと夢中でした。その後は、素振りの練習と体力作りの毎日でした。学校の周りを部員が「一団となって」「高々ファイブ」卓球部「ファイブ」と掛声を出しながら走る時は、部員としての連帯感をひしひしと感じたものでした。更に、柔軟体操・うさぎ跳び・フットワークと苦しい練習に歯を食いしばりました。私と同じ新入部

員は二〇人位いましたが、夏季合宿の頃には半分位に減っていました。合宿は一週間で、寝食を共にし、夜更けるのも忘れた練習で何とかボールにも慣れてきました。

高々の三年間を振り返って思い出すのは、何ととっても夏季合宿と試合に出場した事です。OBの方々には、卓球部での思い出や練習のアドバイスを話して頂きました。そして試合には、現役の先輩と桐生・前橋などへと早朝から出掛けたものでした。こうして筆を走らせていると、当時の思い出が一つ一つよみがえってきます。卓球を通して、今までに沢山の人の知り言葉を通し、また学んだ事、それらが自分の人生や仕事に役立っている事は計り知れないと思います。

私は、現在も職場の卓球部に所属しています。時折練習をしたり試合に出る機会がありますが、腕前の方はかなり後退気味です。しかし、ラケットを握りボールを打ち合うと、とにかく気分がよいのです。いつまでも、卓球を友として、趣味として、やって行けたら最高と思っています。

私は当時の卓球部の仲間と時々楽しく酒を飲み交しますが、最後は必ずまた高々へ行って卓球がしたいなあという話題になってしまふのです。一つの目標に向かってぶつかっていた事、それは青春の証であり、自分の宝でもあります。これからも高々卓球部のますますの発展と活躍を願ってやみません。そして現役諸君が、悔いのない青春の思い出を残せる様に、また立派な成績を挙げ、卓球

を愛する事を期待します。卓球台に「コーン」「コーン」とボールの響きを浮べつつ、苦しかったり楽しかった思い出を胸に筆を置きます。(六五回 高崎市役所)



ゴルフ用品デパート

有賀園

代表取締役

明(五四回)

高崎市石原町一七五〇  
電話〇七三(三)二九九五  
(一五)四三二五

冬木工業株式会社

常務取締役

冬木金雄(五四回)

高崎市栄町二二一  
電話〇二七三(三)五〇〇八

藤崎内科皮膚科医院

藤崎裕(五四回)

高崎市砂賀町一五  
電話〇二七三(三)二八一八

武井信生〇×柴田 一回戦

(三年) (山梨・谷村工業)

西山 功〇×宇山 一回戦

(三年) (千葉・安房農業)

深沢 功×〇大木 一回戦

(三年) (茨城・結城第一)

武井信生×〇増沢 一回戦

(東京・明治大附属中野)

西山 功×〇平山 一回戦

(茨城・水戸農業)

白石克彦×〇近江 一回戦

(三年) (神奈川・向の岡工業)

三宅浩一×〇石井 一回戦

(三年) (神奈川・相洋)

高橋弘幸×〇平栗 一回戦

(二年) (千葉・専修大松戸)

村田宏光〇×小川 一回戦

(二年) (埼玉・埼玉栄)

富岡誠一×〇森田 一回戦

(二年) (埼玉・小松原)

村田宏光〇×佐藤 一回戦

(山梨・谷村工業)

石川秀明×〇山口 一回戦

(三年) (神奈川・逗子開成)

田村 健〇×田村 一回戦

(三年) (千葉・拓殖大紅陵)

飯塚 聡×〇浜崎 一回戦

(二年) (千葉・天羽)

小関照雄×〇金井 一回戦

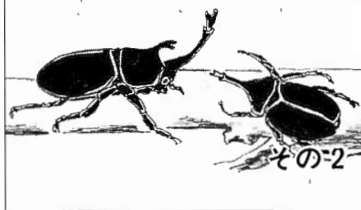
(二年) (千葉・専修大松戸)

田村 健×〇柴田 一回戦

(東京・明治大附属中野)

卓 球 部

青春の絆 6



卓球部の思い出

須藤 順一

私の青春の思い出は、卓球部の思い出そのものです。中学校の三年間、高校の三年間、卓球一筋の毎日でした。それこそ、卓球部の思い出以外はほとんどありませんでした。

しかし、成績の方はというと、実に高々三年間は賞状が一枚もありません。あれ程努力を重ね卓球に打ち込んだのに、目立った成績はありませんでした。今思うと、技術の点では県でも上位のクラスだったと思うのですが、体力・気力の点で劣っていた様です。体力の点は、不断の基礎トレーニングが苦手でよく省略してしまいました。そのため、試合が進むにつれ疲労困ぱい、実力が半分も出せなくなっていました。それから気力の点でも、いつもこの試合こそ、この試合こそと入れ込み過ぎ、緊張感におそわれ手足がちがちになり、実力が出し切れない事がありました。そんな訳でい

つも五回戦止り、ベスト32まででした。

しかしそんな中でも今一番思い出に残る試合は、二年の最初の大会でベスト4を懸けて桐生高校と対戦した時です。シングルスでは、ランキング八位の選手と当り、実力を出し切り完勝しました。おまけにダブルスでは、県ランキング一位でインターハイにも出場した事のあるペアに馬場重典君(六七回)と組んで勝ってしまいました。大胆な攻撃で強力なドライブを武器にする馬場君と粘り強くつなぎの得意な私とで息も合い、接戦を戦い抜き、到頭勝利を我がものとしたのです。当然、団体戦ではベスト4を高々にもたらししました。それだけではなく、このダブルスの勝利の自信は大きく、このまま頑張れば馬場君と組んでインターハイ出場も夢ではないと思えました。しかし、それもすぐに夢と消えてしまいました。その試合の直後、馬場君がひどい関節炎で休部し、絶好のパートナーを失ってしまったからです。その後も中々呼吸の合うパートナーに恵まれず、ついにチャンスを失ってしまいました。もし馬場君とのコンビが続いていたらと思うと、今でも残念で仕方がありません。シングルスでも今一つ力が足りず、高々三年間は到頭関東大会やインターハイ、それに団体にも出場出来ず、一枚の賞状もなく終ってしまいました。

そんな私は大学では文化系のクラブに籍を置きましたが、今では大学四年間も卓球で頑張ってみたかっと思っっています。そんな訳で、大学卒業後、高々卓球部OBが集まりクラブチームを作りまし

宝産業株式会社

常務取締役

沼 賀 勝 平(五五回)

高崎市大橋町二〇〇  
電話〇二七三(二六)六一五一

非儀・祝儀の総合商社  
株式会社 田 胡 忠

専務取締役

小此木 勝(五六回)

高崎市高岡町三一〇二  
電話〇二七三(二七)三三三三

た。技術の向上より趣味に重点をおいた軽い気持ちで始めました。それがどういう訳か、高崎市民大会で二度続けてシングルス三位になり、市代表として県大会にも出場しました。高々時代にあれ程欲しくて取れなかった賞が、遊び半分と思っ始めた途端に続けて入賞し二枚も賞状をもらうなんて。勝負とはそういう物かも知れませんが、その卓球もここ数年していませんが、この機会にまたラケットを握ってみようかなと思っています。

最後に、後輩の諸君に一言。運動で上達するには、技術の向上を目指すだけでなく、体力、それに気力の向上も同時に目指さなければなりません。この三つを鍛えれば、必ず強くなります。頑張ってください。(六七回 須藤商店)

昭和五四年度

高々運動部活動状況

柔道部相撲班 II

◇全国総体県予選

(五四・六) 勝率5・勝点22

団体

高々1—4勢多農林

高々2—3東農大二

高々3—2大間々

高々3—2樹徳

高々4—1富岡

高々4—1中之条

高々5—0桐生商

個人

西山 功(三年)

武井信生(三年)

黒沢征伸(二年)

志田 稔(二年)

富岡誠一(二年)

◇全国新人大会県予選

(五四・六一) 勝率3・勝点16

団体

高々2—3東農大二

高々3—2中之条

高々3—2勢多農林

高々5—0大間々

個人

一年の部 篠原和弘

富岡誠一

四方田勉

高橋 徹

吉田昌司

飯塚 聡

二年の部

ベスト16

ベスト16

ベスト16

ベスト8

二位

一位

### 関東大会を目指した頃

佐藤 真一

私は、昭和四六年に高々に入学し、すぐ中学校時代に経験のあった卓球部に入部しました。高々での三年間は、今思えば全く短い期間でしたが、そこで私は本当に多くのことを経験しました。大会のこと、合宿のこと、先輩・後輩との交わり等、これらのことを少しづつ思い出してみたいと思います。

まず最初に思い浮ぶのは、合宿のことです。初めて親元を離れて一週間も外泊することや朝から夜まで練習することなど不安を感じていたのですが、実際に合宿に入るとただ夢中であつたという間に一週間が過ぎてしまいました。合宿には、多くのOBがいらして下さいました。OBの方々には、練習中に熱心な指導をして下さるばかりでなく、練習後も色々ためになる話をして下さり、実に沢山のことを覚え経験したものでした。

そして合宿後の夏休。当時、毎年その時季に卓球部恒例のキャンプがありました。私が一年の時は磐梯山、二年では上高地へ行きました。釣をしたり、飯ごう炊きをししたり、山登りをしたり、今では忘れられない楽しい思い出の一つとなっています。

楽しい思い出といえば、高崎女子高校との合同練習会・合同ハイキング、翠巒祭でお化け屋敷をしたこと、前橋高校との定期戦など、思い出せば切りがありません。

私が三年の時の関東大会県予選。これ

は、苦しい思い出に入るでしょうか。二月にあった新人戦でベスト8に残った私としては、チャンスと思ひ大会出場を目標に練習に励み試合に臨んだ訳ですが、あえ無くベスト16までしか勝ち進むことが出来ませんでした。ところが、まだチャンスがあつたのです。この年は、大会が群馬県で開催されるため、例年より四名増の一二名が出場出来るということでした。そこで、ベスト16まで勝ち残った八名が四名ずつリーグ戦をし、上位二名を選出することになりました。私は、二

日間で既に一〇数試合を消化しており、食事がほとんどを知らず体力的にかなり参っていました。何とか頑張り通し念願の関東大会出場を達成することが出来ました。振り返って見ると、この大会で最後まで頑張り通した気力・体力が社会人となった今でも大きな自信として私を支えてくれています。ただ残念なのは、関東大会出場という目標はあくまでも第一段階であり、関東大会優勝・インターハイ出場など二段・三段構えで目標を作り達成して行く努力がなかったことです。しかし、私達が成し得なかつたこれらのことは、いつか必ず後輩達が達成してくれることでしょう。今はただ後輩達に夢を託すのみです。

私は、中学校で卓球を始めました。そして、高々の卓球部、大学の体育会の卓球部を経て、現在でも卓球盛会というクラブに所属して細々ながらも卓球を続けています。卓球は、個人中心のスポーツです。どのスポーツにもいえることと思いますが、『自己との戦い』を経て上達し

て行くものです。ただ、自分一人では高々この戦いを乗り越えられるものではありません。厳しい練習の中で、同じ様に苦しんでいる仲間がいるからこそ出来るものなのだと思います。練習中には厳しくその他の時にも色々と面倒をみてくれた先輩達、私達を慕い頼ってくれた後輩達、また卓球部全体を把握し陰ながら支えて下さった顧問の先生など、これらの人々がいたからこそ私の高々卓球部での三年間は本当に素晴らしいものになりました。感謝すると共に、これからの皆さんの活躍を祈る次第です。

(七三回 サトウ保険)



#### 順道館桜井柔道場 桜井接骨院

桜井 弘(五六回)

高崎市飯塚町一〇四〇  
電話〇二七三(六)二五〇二

#### 新しい街造りに貢献する 日米住宅工業株式会社

常務取締役

湯 浅 潔(五六回)

高崎市本町一三二  
電話〇二七三(三)八一

### バレー部

黒沢征伸 ベスト16  
小関照雄 ベスト16  
村田宏光 ベスト16

◇県総体・関東大会県予選 (五四・五)  
高々2—0伊勢崎工 四回戦  
高々2—0中央 五回戦  
高々2—0富岡 準決勝  
高々2—0高崎商 決勝

◇関東大会 佐野市(五四・六)  
高々0 (13—15) 2 東京・早稲田実業 二回戦

◇全国総体県予選 (五四・六)  
高々2—0前橋工 四回戦  
高々0—2伊勢崎工 五回戦

◇国体県予選 (五四・七)  
高々2—0利根農林 四回戦  
高々0—2高崎商 五回戦

◇秋季大会(本間杯) (五四・一)  
高々2—1館林 四回戦  
高々0—2高崎商 五回戦

◇全国選抜大会県予選 (五五・一)  
高々2—0太田工 一回戦  
高々2—0沼田 三回戦  
高々2—1前橋商 四回戦  
高々0—2高崎商 決勝リーグ  
高々2—1富岡

高々2—0伊勢崎工 二位

◇全国選抜大会北関東予選 伊勢崎市(五五・二)  
高々0 (8—15) 2 栃木 準決勝  
10—15 足利工業大附属

# 柔道と私



桜井 弘

私にとって、高々柔道部なくして柔道は語れません。現在、高崎で二代目の町道場主として青少年に柔道指導の傍ら県柔道場連合会の理事長として微力を注いでいる私にとって、高々時代の柔道修業が大いに役立っております。

昭和二十九年四月入学後、柔道部の入部にしゆん巡していた私は、同期の佐藤岳男君(新潟県庁)に強引に入部させられました。当時、先輩には鈴木英俊氏(五回・山英鈴木商店)・冬木金雄氏(五回・冬木工業)・田村悟氏(五五回・中央資材)・沼賀勝平氏(五五回・宝産業)・平野展司氏(五五回・司土建)、そして同期には佐藤君の外に生方将夫君(マジョーレ)・木暮豊君(読売広告)等、粒ぞろいの強豪選手でした。後輩には、石井清一君(五七回・修道館石井柔道場)・岸泰徳君(五七回・東京農業大学第二高校)等、業師がおりました。今でも当時の厳しい稽古が昨日の事のように思い出されます。特に合宿で、毎朝

六時にたたき起され、観音山の石段登り(約五三〇段)を二往復させられました。石段の途中で先輩が見張っていて朴歯下駄で尻をけられ、その時の先輩の顔は鬼に見えたものです。また、私自身は足腰を鍛えるため、飯塚町の自宅より往復八kmの道を朴歯下駄を履いて徒歩で通学しました。厳しい稽古のかいあって、私が二年の時、沼賀・田村両先輩の活躍でインターハイ県予選に優勝しました。大分市で開かれたインターハイの開会式での感激は今でも忘れません。その後私は団体や国際大会に数回参加しましたが、インターハイでの新鮮な感激程のものはありませんでした。

当時の練習や試合を通し、冬木主将や次の沼賀主将から愛情あるしごきの仕方を学びました。同期の主将生方君からは、リーダーとしてのチームワーク作りを学びました。時として無断でサボる仲間には鉄棒で論す事もあった彼のらみは、柔道部をまとめるのに充分でした。彼は現在でも、高々五六回生の幹事長として毎年クラス会開催の労を取ってくれております。同期の佐藤君からは、彼の得意技の跳ね腰を学びました。彼に毎日投げ付けられながら、彼の得意技が私の物になりました。三年の時の国体県予選で、その跳ね腰を駆使し、佐藤君が一位、私が三位、五位に二年の岸君が入りました。県代表五名の中、三名が高々という結果でした。現在、新潟にいる佐藤君には、時折、新潟名産コシヒカリを送ってもらっております。そして、恩師今井孝造先生(現富岡高校)からは、選手用兵の骨

を盗ませて頂きました。現在、私の道場の小・中学生チームが、全国の町道場やスポーツ少年団の大会で数多く優勝出来たのも、高々柔道部時代に体験した厳しい稽古と先生・諸先輩から受けた愛情あるしごきの仕方などが私の指導法に大いに役立った結果だと思えます。

さて最近習い始めたゴルフも沼賀氏・生方君を師と仰ぎ、月一ゴルフを楽しんでおります。昨年八月に行われた第一回翠巒体育会ゴルフ大会では、我が柔道部が団体優勝、生方君が個人優勝、有賀明君(五四回・有賀園ゴルフ場)がベストグロスに輝き、柔道部OBの健在振りを示しました。

最後に、現役選手諸君、久しく関東・全国大会出場という話を聞いております。御奮闘をお祈り致します。

(五六回・柔道部 六段  
順道館桜井道場・桜井接骨院)



ブラジル柔道少年と (S 55・11)

## 高々運動部活動状況

昭和五四年

### 剣道部

本/勝

#### ◆県総体・関東大会県予選

(五四・五)

高々% 太田工

二回戦

高々% 伊勢崎工

三回戦

高々% 沼田

四回戦 五位

#### ◆全国総体県予選

(五四・六)

高々4 桐生商

二回戦

高々3 勢多農林

三回戦

高々2 前橋商

四回戦

高々3 沼田

準決勝

高々% 東農大二

決・勝 二位

#### ◆県選手権大会

(五四・九)

高々% 館林

二回戦

高々% 渋川

三回戦

高々% 藤岡

四回戦

高々% 高崎工

準決勝 三位

#### ◆新人大会

(五四・一)

高々% 富岡

二回戦

高々% 高崎商

三回戦

### 野球部

#### ◆全国選手権大会県予選

(五四・七)

高々2 利根商

一回戦

◆秋季関東大会県予選

(五四・九)

高々4 吉井

一回戦

高々5 太田

二回戦

高々1 桐生工

延長一回 準々決勝

## スポーツとの出会

高々水泳部顧問  
志村甲子郎

スポーツはほとんどやらなかった。というよりは、やらなかったといった方が適切かも知れない。それが「翠巒体育」に筆を執る事は、場違いの感が強いと反省している。

木枯しの吹きすさぶグラウンドに砂はこりが舞っていた。その頃の空つ風は、今よりもすさまじかった様に思う。それも、烏川の河原を歩いて通学する事がなくなったからの様にも思える。

「とつとと跳んで来い」。

大きな声がグラウンド一杯に鳴り響く。体育の時間の始まりである。寒さにかじかんだ生徒が、校舎の陰からばらばらと走って行く。がなり立てているのは富田俊一先生(一回)。今はもういない。

その富田先生との出会いは、私とスポーツとの出会でもあった。だからといってそんなに深刻に考えていた訳でもなく、ただその時間を何となく過ぎたに過ぎなかった。

当時の体育は、歩調を取って行進したり、鉄棒だったり、また現校地へ移転の時だったので整地作業であったりした。全校マラソンの前には、その準備でトラ

ックを走る事だった。私は、このマラソンの練習で、走り回るといふよりは走り回られる事が割合に好きだった。そして結構早かった。まじめにも走った。あるいは、級友達がいやがって本気で走らなかったせいかも知れない。

マラソンコースは、八千代橋からスタートして中仙道を走り剣崎の水源地を経て校門へもどる一〇、〇〇〇m。スタートの時刻は、信越線の踏切で列車に遭わない様に配慮されていたと思う。職員として赴任してみると、やはり同じコースであった。それが交通事情の悪化により、少林山の曲口までの折り返しになり、東京農業大学第二高校の方へ変り、現在の観音山一周となった。

このマラソンの練習も全校大会が終ればそれで終り、それ以上に進む事はなかった。

ちなみに、その頃、背の長い生徒を集めて技術講習会が開かれ排球部が創設された様な記憶がある。また、護国神社の整地が始まり、県下の中等学校の生徒が作業に当たった。そして、キャラメル一箱

を手にして帰ったものだった。その箱の値段が、五銭の頃の話である。高崎中学校を卒業したのが昭和一六年二月、第二次世界大戦前夜の重苦しい時代でもあった。卒業と共に、私のスポーツとの出会も擦れ違いになった。

再び私が校門をくぐった時には、高崎高等学校と変っていた。

「どうだい、ゴルフの練習に行かないか」。

ある日、一人の友人に誘われた。

「とてもそんな身分ではないよ」。

今程ゴルフが普及していなかった。

「まあ、とにかくついて来いよ」。

無理矢理に自家用車に乗せられ、練習場に連れて行かれた。自家用車も未だ珍しかった。この様にして、ゴルフとの出会が始まった。いや、始めさせられたといつてよい。

「ほらね、こうやって打つんだ。腕で打つんじゃないんだ。腰で打てばいいんだよ。おながが空を向くだろう」。

いとも簡単に打って見せてくれた。ボールは、真すぐに、面白い様に飛んだ。止

っているボールを打つので打てるだろうと思ったが、飛ぶどころの騒ぎではない。クラブヘッドは、ボールに当りもかすりもしない空振り。劣ると思えば、そこは地球の表面であった。それでも何とかボールが飛ぶ様になり、コースへも何回か連れて行ってもらった。懐かしい思い出である。

今になって考えてみると、基礎の理解を基にした練習の不足であった。色々な本を読んでみて、グリップ・スタンスなど基礎がいかに重要であるか、練習によって体に覚え込ませるには多くの時間が必要であった。これは、スポーツだけではなく、他の教科の学習にもいえる事であらう。

この頃、時々コースに出る。一緒に回る人物に、高中時代、野球部の選手だった者がいる。今は自営業、店に座っている事が多い。一ラウンドも回らない内に「疲れた。疲れた」と弱音を吐く。いつも立って授業をし黒板に向かって字を書いている者と、いつも座っている者との違いだろう。体力の保持、健康の維持には、普段の生活態度が基礎となるものと思ふ。

右へ曲る、左へそれるボールを追い、コースの林の中をがけの縁を歩き回る。これも、健康増進のためとあきらめていいる。ゴルフとの出会、今度は擦れ違いに終らせたくないものである。

(四〇回 数学科)



第三四回

高々・前高定期戦



惜敗!!

一般対抗総崩れ

実行委員長

三年 大竹 秀人



第三四回対前橋高校定期戦は、一般対抗の総崩れによって部対抗の健闘もむなしく、74-70という結果で惜敗してしまいました。

昭和五五年九月二三日(土)。まだ夏の日差しが強い中、水泳と野球の競技が行われました。

水泳は、今年前高の水泳同好会結成によって再開され、9-0で勝ちました。一般対抗は、三学年共ほぼ中盤で結果の決る快勝振りでした。

一〇日三日(金)。日差しも和らいで抜ける様に青い秋空の下、移転したばかりの前高において、本大会が予定通り行われました。

今年に残念ながら敗れてしまいました。競技展開は、午前の一般種目が総崩れとなり綱引の全敗で勝利が絶望的かと思えたものの、高々運動部はその底力を発揮し、終盤では逆転に次ぐ逆転で最高の一種目を落した方が負という切迫した状態でした。

敗北の第一要因は、当然一般対抗の練

習不足にあるといえます。これには例年のごとく人数不足による実行委員会の不手際が挙げられますが、それ以上に高々生と前高生の勝利に対する意欲に差があったと思います。この事は、練習日程を作っても練習に出て来ない一般種目、それによって綱引に代表される様な団体競技の惨敗、それに応援の不一致などによく表れていると思います。「当日にならなければ燃えない」という高々生気質に問題があります。

その他、気付いた事ですが、開会式・閉会式における高々生の態度の悪さが目立ちました。集合が遅い上、私語が多くざわついていて注意しても静かにならないという始末で、これは大いに反省すべき点です。

来年も前高は、一般種目を強化して来ると思っています。しかし、高々もそれ以上に強化してこの高々グラウンドで迎撃し、高々生の真の意地と力を発揮してもらいたいと思います。そしてまた、競技のみならず他における態度でも、「立つ鳥後を濁さず」のごとく恥ずべき点のない様に注意してもらいたいと思います。では最後に、高々生の変貌振りを期待しております。

高々・前高定期戦 得点表

	昭和54年度				昭和55年度			
	第33回				第34回			
	高々	前	高	部	高	前	高	部
陸上	3	6	6	0	1.5	6	7.5	0
バスケット	8	6	1	0	4	6	5	0
バレー	9	6	0	0	3	6	6	0
軟式庭球	中止	中止	中止	中止	6	0	3	6
硬式庭球	/	中止	/	中止	/	0	/	6
卓球	3	0	6	6	3	0	6	6
駅伝	7.5	/	1.5	/	1.5	/	7.5	/
綱引	0	/	9	/	0	/	9	/
水泳	中止	中止	中止	中止	9	/	0	/
ラグビー	/	0	/	6	/	6	/	0
サッカー	/	0	/	6	/	3	/	3
体操	/	6	/	0	/	3	/	3
剣道	/	6	/	0	/	6	/	0
柔道	/	6	/	0	/	6	/	0
野球	/	6	/	0	/	0	/	6
小計	30.5	42	23.5	18	28	42	44	30
総計	72.5		41.5		70		74	

(高々17勝13敗3引分1中止)



バスケット



駅伝

第二三回高々・前高定期戦 (S五四・九・二八)



昭和55年度 高々運動部活動状況 その1

第15回県高校総体(S55・5)

種目成績(男子)

Table with 7 columns (種目, 1位, 2位, 3位, 4位, 5位, 6位) listing various sports and their winners.

総合成績(男子)

Table with 6 columns (1位, 2位, 3位, 4位, 5位, 6位) showing overall ranking and scores for various sports.

※水泳(55・8)・駅伝(55・11)・スキー(56・1)・スケート(56・2)を除く

○バスケット部
高々119-39勢多農林 2回戦
高々64-97桐生工 3回戦

○バレー部
高々2-0伊勢崎東 4回戦
高々2-0中央 5回戦
高々2-0富岡 準決勝
高々0-2高崎商 決勝
<関東大会出場>

○卓球部
(ダブルス)
堀越 昭仁・竹鼻 義昭(2年)
ベスト16

(学校対抗)
高々3-0関東学園 1回戦
高々3-0吉井 2回戦
高々0-3桐丘 3回戦

○ラグビー部
高々44-0伊勢崎東 2回戦
高々18-4前橋商 準々決勝
高々24-4太田 準決勝
高々37-3東農大二 決勝
<関東大会出場>

○サッカー部
高々18-0甘楽農 1回戦
高々3-0渋川工 2回戦
高々0-2前橋商 3回戦

○柔道部
高々5-0安中 1回戦
高々4-0桐生工 2回戦
高々1-2藤岡 3回戦

○剣道部 本/勝
高々4/1-9/4利根商 2回戦

○弓道同好会
高々 9中(24射各自8射) 予選

○陸上部 得点24

- 100Mジュニアハードル 永井 正樹(3年) 15秒2 2位
400Mハードル 加藤 隆志(3年) 56秒8 3位
内田 行宣(3年) 58秒1 6位
4x100Mリレー 高々(須賀・反町・加藤隆・永井) 44秒0 6位
4x400Mリレー 高々(内田・萩原・反町・加藤隆) 3分24秒6 3位
走幅跳 永井 正樹(3年) 6m68 1位
ハンマー投 伊勢川 光(3年) 42m80 4位
<関東大会出場>

駅伝(55・11)
高々(中村信・金沢・堀口・田中・大塚・上原・中村直) 2時間40分03秒 17位

○山岳部 小野子山・子持山コース
高々(藤野・細矢・松井・新井) 7位
<関東大会出場>

○水泳部(55・8) <30頁へ>

○軟式庭球部

- (個人)
石井 公法・武井 将夫(1年) ベスト16
<関東大会出場>
中村 孝雄・小林 聡(3年) ベスト32
須藤 昭利・森岡 直(2年) ベスト32
(団体)
高々2-1高崎工 2回戦
高々2-0沼田 3回戦
高々0-2東農大二 4回戦

○硬式庭球部

- (団体)
高々3-0沼田 2回戦
高々2-1新島学園 3回戦
高々2-1桐生 準決勝
高々0-2太田 決勝
(シングルス)
林 正和(2年) 1位
<関東大会出場>
島田 好伸(3年) ベスト15
(ダブルス)
林 正和(2年)・島田好伸(3年) ベスト8

昭和55年度  
高々運動部活動状況

その 2



陸 上 部

◇関東大会・全国総体関東予選

上尾市(五五・六)

一〇Mジュニアハードル

永井 正樹(三年) 15秒1 六位

四〇〇Mハードル

加藤 隆志(三年) 55秒4 六位

四×四〇〇Mリレー

高々(内田・萩原・反町・加藤隆)

走幅跳 3分22秒6 三位

走幅跳

永井 正樹(三年) 6m81 六位

◇全国総体 松山市(五五・八)

一〇Mジュニアハードル

永井 正樹(三年) 14秒72 四位

◇学校対抗 一部 (五五・九)

得点37・五位

四〇〇M

加藤 隆志(三年) 49秒9 一位

一〇Mジュニアハードル

永井 正樹(三年) 15秒0 二位

加藤 隆志(三年) 15秒0 三位

四〇〇Mハードル

加藤 隆志(三年) 55秒1 一位

内田 行宣(三年) 57秒4 三位

四×四〇〇Mリレー

高々(加藤由・萩原・内田・加藤隆)

走高跳 3分24秒0 三位

走高跳

林 琢身(一年) 1m80 五位

走幅跳

永井 正樹(三年) 6m55 五位

有限会社 高崎保安機材

代表取締役

早川 弘(五七回)

高崎市上並榎町一八  
電話〇二七三六(九二)〇

伊勢川 光(三年) 41m76 三位

◇秋季大会 (五五・一〇)

一〇〇M

町田 充(二年) 11秒3 五位

四〇〇M

加藤 由久(一年) 51秒9 三位

四〇〇Mハードル

内田 行宣(三年) 56秒8 二位

一五〇〇M障害

中村 信勝(一年) 4分55秒4 六位

棒高跳

林 琢身(一年) 3m40 五位

円盤投

神宮 勉(一年) 31m80 五位

卓 球 部

◇全国総体県第二次予選 (五五・六)

高々3 1 洪川 一回戦

高々3 2 伊勢崎東 二回戦

高々0 3 沼田 三回戦

◇新人大会(学校対抗) (五五・九)

高々3 0 佐波農 一回戦

高々3 1 洪川 二回戦

高々0 3 前橋商 三回戦

翠 樹 体 育 会



二・八 昭和五四年一月  
バスケット部に饒別  
―全国選抜大会

関東予選  
―関東選抜大会  
―全国選抜大会

三・一 卒業式・同窓会入会式  
に会長・副会長出席

三・一五 役員会



四・一六 「運動部への勧め」を  
一年生に配布

五・四 第三回全校マラソン  
大会上位入賞六名にト  
ロフィー贈呈

五・一六 陸上部  
バスケット部  
バレエ部

軟式庭球部  
卓球部  
ラグビー部

柔道部 相撲部に饒別  
―関東大会―  
第六回定期総会

五・二六 役員会  
六・三 役員会

硬式庭球部

◇関東大会 東京都(五五・六)  
林 正和 4—6山中 一回戦  
(二年) (栃木・小山) (五五・七)

◇県選手権大会  
シングルス  
林 正和(二年) 二位  
島田好伸(三年) ベスト8  
内田雅仁(二年) ベスト24  
ダブルス  
林 正和・島田好伸 ベスト16  
(二年) (三年)

佐藤泰司・内田雅仁(二年) ベスト16  
◇全国総体 松山市(五五・八)  
林 正和 7—5岡部 一回戦  
(二年) (大分・日出)

林 正和 3—6中内 二回戦 (高知・土佐)

◇新人大会  
シングルス  
林 正和(二年) (五五・八) 二位  
ダブルス  
佐藤泰司・内田雅仁(二年) ベスト16 (五五・八)

団体 (五五・一〇) 二回戦  
高々 5—0藤岡  
高々 4—1桐生 三回戦  
高々 3—2伊勢崎東 準決勝  
高々 1—4太田 決勝

◇室内大会 (五五・一二) 五六・一  
シングルス  
林 正和(二年) 二位  
内田雅仁(二年) ベスト28  
ダブルス  
佐藤泰司・内田雅仁(二年) ベスト8

バレー部

◇関東大会 藤沢市(五五・五) 六  
高々 2 (15 | 15 | 3) 0 東京・東亜学園 一回戦  
(15 | 10 | 10)

高々 1 (4 | 15 | 4 | 15) 2千葉・習志野 二回戦  
(4 | 15 | 13 | 15)

◇全国総体県予選 (五五・六)  
高々 2—0桐生 四回戦  
高々 2—0伊勢崎工 五回戦  
高々 2—0高崎商 準決勝  
高々 2—0桐生 決勝

◇国体県予選  
高々 2—0桐生 四回戦  
高々 2—0桐生工 五回戦  
高々 2—1桐生商 準決勝  
高々 0—2高崎商 決勝

◇全国総体 丸亀市(五五・八) 子選  
高々 1 (5 | 4 | 15 | 11) 2島根・松江工  
(10 | 15 | 15 | 15)

高々 0 (0 | 15 | 15) 2兵庫・琴丘

◇秋季大会(協会長杯) (五五・一一)  
高々 2—0太田工 四回戦  
高々 2—0沼田 五回戦  
高々 1—2桐生商 準決勝

◇新人大会・全国選抜大会県予選 (五六・一)  
高々 2—0勢多農林 二回戦  
高々 2—0桐生工 三回戦  
高々 2—0中央 四回戦  
高々 0—2高崎商 決勝リーグ

ラグビー部

高々 0—2桐生商  
高々 0—2前橋商 四位

◇関東大会 水戸市(五五・六)  
高々 14 (4 | 18) 18埼玉・浦和  
(10 | 0 | 0)

◇全国大会県予選 (五五・一一)  
子選リーグ 三勝(Dブロック一位)  
決勝トーナメント  
高々 25—10太田工 一回戦  
高々 45—3伊勢崎東 準決勝  
高々 17—23東農大二 決勝  
◇新人大会 Aブロック (五六・一二)  
高々 18—0中央 二回戦  
高々 13—15前橋 準決勝

株式会社 大陸不動産

山口正敏(五八回)

高崎市宮元町一〇四  
電話〇七三(一)四〇三二

関東トラック貿易株式会社

落合 稔(六〇回)

東京都新宿区西新宿七一〇一七  
ダイカンプラザB館一〇〇二号  
電話〇三(三六)四・五一

七・二 役員会  
七・一六 役員会  
七・二六 水泳部に饒別  
—関東大会—

八・一三 水泳部・斉藤政宏  
に饒別—全国総体—

八・二六 音楽部第二〇回記念演  
奏会に生花贈呈・役員  
出席

八・二七 水泳部・斉藤政宏  
に饒別 —国体—

八・二九 第一回ゴルフ大会  
：ロイヤルオーク  
カントリークラブ

九・一 ラグビー部に饒別  
—国体関東子選—  
江原隆起先生(柔道)  
別府重龍先生(剣道)  
に饒別 —国体—

九・三 役員会  
一〇・一〇 「翠巒体育」六号発行  
役員会

二・一五 中野敏宗先生文部大臣  
表彰祝賀会に役員出席  
役員会

二・二〇 役員会

二・二二 昭和五五年一月  
バレー部に饒別  
—全国選抜大会—  
北関東子選—

二・一五 役員会  
卒業式・同窓会入会式  
に会長・副会長出席

三・二二 役員会

昭和55年度  
高々運動部活動状況

その3



剣 道 部

◇全国総体県予選 (五五・六)

個人 三井正義(三年) ベスト16

団体 高々2/3 前橋育英 二回戦

◇県選手権大会 (五五・九)

個人 柳田昌彦(三年) 三位

団体 高々2/4 前橋育英 二回戦

高々2/4 前橋育英 三回戦

◇国体 少年 日光市(五五・一〇)

群馬3 2大分 一回戦

(大塚・原田・柳田・梅山・滝野)

群馬5 0鳥取 二回戦

群馬2 3愛媛 三回戦

◇一年生大会 (五五・一一)

高々4 0利根農林 二回戦

高々1 0中央 三回戦

バスケット部

◇全国総体県予選 (五五・六)

高々98 19前橋商 一回戦

高々94 63中之条 二回戦

高々112 75新島学園 三回戦

高々79 69前橋 四回戦

高々55 66太田 準決勝

◇強化大会 (五五・八)

高々128 50伊勢崎工 二回戦

高々79 39高崎工 三回戦

高々66 65前橋 四回戦

高々69 56高崎商 準決勝

高々110 54桐生工 決勝

◇新人大会・全国選抜大会県予選 (五六・一)

高々104 29玉村 二回戦

高々149 9武尊 三回戦

高々106 61伊勢崎東 四回戦

高々79 65高崎商 決勝リーグ

高々71 39中之条 一位

高々65 62前橋

◇全国選抜大会関東予選

高々71 40神奈川 一回戦

高々71 41相模工業大附属 一回戦

高々83 46山梨・日本大明誠 敗者復活一回戦

37 40 21 61

甲府市(五六・二)

茨城・土浦日本大

宮本泰明

富岡誠一

前橋工

有田邦夫(六五回)

高崎市上並榎町五八〇―四  
電話〇二七三二二六三三三九〇

化学工業製品・損害保険・自動車事故相談室  
群栄商事株式会社  
群栄興産株式会社  
代表取締役

柔 道 部

◇学年別選手権大会 (五五・五)

一年の部 宮本泰明 三位

二年の部 富岡誠一 三位

◇全国総体県予選 (五五・六)

高々3 1前橋工 一回戦

高々1 2沼田 二回戦

◇新人大会 (五五・一一)

高々3 2中之条 二回戦

高々4 1富岡 三回戦

高々0 5前橋商 四回戦

◇関東新人大会県予選 (五五・一一)

高々4 0板倉 二回戦

高々1 0東農大二 三回戦

高々0 4前橋商 四回戦

山 岳 部

◇関東大会

茨城・大子町(五五・一一)

高々 奥久慈山塊Bコースに参加

(新井・高田・時田・布施・横坂)



翠樹体育会

昭和五五年四月

四・一六 「運動部への勧め」を一年生に配布

五・九 第三二回全校マラソン大会上位入賞六名にトロフィー贈呈

五・二〇 陸上部 バレー部

軟式庭球部 ラグビー部

硬式庭球部・林正和に餞別―関東大会―

六・二 役員会

七・一七 水泳部に餞別―関東大会―

陸上部

バレー部

軟式庭球部

硬式庭球部・林正和に餞別―全国総体―

八・五 水泳部・斉藤政宏に餞別―全国総体―

八・九 第七回定期総会

八・二五 ラグビー部に餞別

九・一 水泳部・斉藤政宏に餞別―国体―

九・六 江原隆起先生(柔道) 剣道部・柳田昌彦

### 軟式庭球部

#### ◇関東大会

石井公法 4—0 高山 一回戦  
武井将夫 4—0 丸山 一回戦  
(一年) (東京・麻布)

石井公法 1—4 吉岡 二回戦  
武井将夫 1—4 新井 二回戦  
(埼玉・松山)

#### ◇全国総体県予選

須藤昭利・丸山裕之 ベスト 8  
(二年) (三年)

石井公法・武井将夫 (一年) ベスト 16  
団体 第二次予選

#### ◇全国総体

須藤昭利 (二年) 4—0 関 一回戦  
丸山裕之 (三年) 4—0 松本 一回戦  
(徳島・富岡西)

須藤昭利 4—2 磯部 二回戦  
丸山裕之 4—2 阿部 二回戦  
(大分・大分商)

須藤昭利 3—4 加藤 三回戦  
丸山裕之 3—4 小林 三回戦  
(青森・八戸工大第一)

#### ◇一年生大会

石井公法・武井将夫 一位  
田村孝史・荒井宏和 二位  
長井 洋・岡田祥英 三位  
酒井晋一・寺口 浩 ベスト 16

#### ◇新人大会

須藤昭利・荒井宏和 三位  
(二年) (一年)

長井 洋・武井将夫 (二年) ベスト 16  
石井公法・寺口 浩 (一年) ベスト 32  
田村孝史・岡田祥英 (一年) ベスト 32  
団体

高々 3—0 前橋育英 二回戦  
高々 2—0 太田工 三回戦  
高々 2—0 中央 四回戦

高々 2—1 高崎商 準決勝  
高々 0—2 吉井 決勝

#### ◇全国選抜・関東インドア大会県予選

高々 3—0 中央 一回戦  
高々 2—0 前橋 準決勝  
高々 0—2 高崎商 決勝

### 野 球 部

#### ◇春季関東大会県予選

高々 3—0 渋川 一回戦  
高々 5—2 桐生工 二回戦  
高々 2—1 伊勢崎工 三回戦  
高々 2—7 太田工 準々決勝

#### ◇全国選手権大会県予選

高々 6—4 桐生南 二回戦  
高々 3—1 伊勢崎東 三回戦  
高々 2—5 東農大二 準々決勝

### 弓道同好会

◇全国総体県予選 (五五・六)  
高々 8中 (40射各自8射) (落)

## 応 援 部

大生相互銀行藤岡支店

加藤 進 弘 (五〇回)

県立前橋工業高等学校

佐藤 清 (五〇回)

群馬銀行営業推進部

志村 昭 (五〇回)

県立高崎工業高等学校

下田 茂 夫 (五〇回)

真宗大谷派 本照寺

東 秀 和 (五一回)

吉井中央診療所

江原 洋 一 (五五回)

松山耳鼻咽喉気管食道科病院

松 山 真 一 (五五回)

群馬中央総合病院

井 田 仁 一 (五六回)

高野薬局

高野 政 博 (五六回)

群馬大学工学部高分子化学科

渡 辺 興 一 (五六回)

に 餞 別 — 団体 —

一〇・三〇 野球部に 餞 別

一一・一 山岳部に 餞 別

一一・三〇 第二回ゴルフ大会

ロイヤルオーク

カントリークラブ

一一・一〇 役員会

二・二 昭和五六年一月

バスケット部に 餞 別

全国選抜大会

二・一三 役員会

三・二 卒業式・同窓会入会式

三・八 第三回ゴルフ大会

高崎 KG



男のトータルファッションを創造する

株式会社 マツヤ

代表取締役

高見沢 隆 (六一回)

高崎市八千代町一—二—一八  
電話〇二七三三—三三—七〇〇三

# 昭和55年度 高々運動部活動状況

その 4



## 水 泳 部

### ◇関東大会県予選 (五五・七)

一〇〇M自由形

齊藤政宏(三年) 58秒4 二位

〈大会タイ〉

二〇〇M自由形

齊藤政宏(三年) 2分14秒6 二位

一〇〇M背泳

松井高志(二年) 1分12秒5 一位

二〇〇M背泳

松井高志(二年) 2分42秒4 一位

都筑秀明(三年) 2分52秒3 二位

四〇〇M個人メドレー

石井晋也(二年) 6分07秒7 三位

八〇〇Mリレー

高々(松井・原田・石井・齊藤)

9分48秒3 二位

四〇〇Mメドレーリレー

高々(松井・原田・齊藤・石井)

4分47秒1 一位

### ◇関東大会・全国総体関東予選

前橋市(五五・七)

一〇〇M自由形

齊藤政宏(三年) 58秒05 九位

〈全国総体出場〉

二〇〇M自由形

齊藤政宏(三年) 棄権

一〇〇M背泳

松井高志(二年) 1分13秒88 (落)

二〇〇M背泳

松井高志(二年) 2分42秒53 (落)

都筑秀明(三年) 2分53秒06 (落)

四〇〇M個人メドレー

石井晋也(二年) 6分07秒8 (落)

八〇〇Mリレー

高々(松井・石井・原田・松本)

10分05秒49 (落)

四〇〇Mメドレーリレー

高々(松井・原田・石井・都筑) 4分57秒11 (落)

四〇〇Mメドレーリレー

高々(松井・原田・石井・都筑) 4分57秒11 (落)

### ◇県総体 (五五・八)

一〇〇M平泳 得点49・三位

原田文明(三年) 1分17秒7 五位

二〇〇M平泳

原田文明(三年) 2分54秒3 四位

一〇〇M背泳

松井高志(二年) 1分12秒9 一位

都筑秀明(三年) 1分16秒7 三位

二〇〇M背泳

松井高志(二年) 2分41秒7 一位

松本貴行(二年) 2分46秒8 三位

都筑秀明(三年) 2分50秒2 五位

二〇〇M個人メドレー

齊藤政宏(三年) 2分39秒3 三位

四〇〇M個人メドレー

松本貴行(二年) 6分04秒8 五位

四〇〇Mメドレーリレー

高々(松井・原田・石井・齊藤) 4分46秒2 一位

四〇〇Mリレー

高々(原田・松井・石井・齊藤) 4分20秒8 三位

八〇〇Mリレー

高々(齊藤・石井・原田・松本) 9分45秒2 四位

高々(齊藤・石井・原田・松本) 9分45秒2 四位

徳島市(五五・八)

徳島市(五五・八)

徳島市(五五・八)

一〇〇M自由形

齊藤政宏(三年) 58秒74 (落)

### ◇新人大会 (五五・八)

二〇〇M自由形 石井晋也(二年) 2分32秒4 一位

二〇〇M平泳

西目雅俊(二年) 3分11秒5 二位

一〇〇Mバタフライ

石井晋也(二年) 1分12秒9 一位

二〇〇Mバタフライ

佐藤秀治(二年) 3分47秒0 一位

野口 保(二年) 3分48秒5 二位

一〇〇M背泳

松井高志(二年) 1分14秒9 一位

二〇〇M背泳

松井高志(二年) 2分49秒2 一位

四〇〇Mリレー

松本貴行(二年) 2分52秒2 三位

高々(松井・松本・石井・原)

4分27秒8 一位

八〇〇Mリレー

高々(石井・平野・松井・松本) 10分25秒6 二位

四〇〇Mメドレーリレー

高々(松井・西目・石井・松本) 5分07秒4 三位

◇国体 少年A 宇都宮市(五五・九)

一〇〇M自由形 齊藤政宏(三年) 57秒81 一三位

## 翠巒体育会 総会報告

昭和五五年度



副会長 設楽 嘉男

昭和五五年度翠巒体育会総会は、八月九日(土)、新任の中沢誠一校長先生を始め各部顧問の先生方、そして本会顧問である市川清先生(二五回)・清水貞保先生(三〇回)・岡田由重先生を迎え、恒例となったレストラン・タカシマヤローズ(高崎市常盤町)において支配人安藤維郎君(五七回・サッカー部)の特別の計いのもとににぎやかに開催された。

今回は組織の若返りと役員未経験OB会を無くそうとの意味合いを含めて役員改選が行われ、会長に国峯善次郎さん(五〇回・サッカー部)、総務担当副会長に設楽嘉男、事業担当副会長に山口正敏君(五八回・卓球部)、会計担当副会長に秋池宗一郎君(六五回・水泳部)、監査に東秀和さん(五一回・応援部)と大須賀正臣君(五七回・陸上部)が選出された。議長は下田茂夫さん(五〇

# 先輩、頑張ってます

## 現役の活躍

その 1



### 無欲のインターハイ入賞

#### 陸 上 部

三年 永井 正樹

『四国路を駆けろ若人意気と熱』をスローガンとする愛媛インターハイに、高々陸上部七人が参加しました。

陸上競技は、インターハイへの道は長く険しく、県総体・関東大会と順に六位以内に入賞しなくてはならないのです。今年、関東大会で一〇〇Mジュニアハードル・四〇〇Mハードル・四×四〇〇Mリレー・走幅跳にそれぞれ入賞、インターハイへの切符を手に入れました。

七月三十一日。滝沢武司先生(保健体育科)が引率する陸上部員は、丸山博先生(六八回・保健体育科)が率いる軟式庭球部と共に松山市へ向かいました。東京駅で丸山先生達とはぐれ、後三分で乗り

遅れるところでした。お陰で、ひかりの二号車から一、二号車まで重い荷物を持って走ったので、とてもいい練習?になりました。そして、宿舍の道後温泉に着いたのは暗くなり始めた頃です。

八月一日。私は、明日に走幅跳があるので午後の開会式には出ず、午前中競技場のサブトラックで練習し、宿舍のテレビで開会式を見ましたが人文字の素晴らしさに感動し地元の人達の努力と汗を感じました。

八月二日。走幅跳が九時三〇分という早い時間に競技開始なので、五時三〇分に起き、七時に競技場に着きました。七月初めに右足首を捻挫し、跳躍練習も助走合せもしていなかったため、棄権も考えたのですが、インターハイの雰囲気慣れたかったのでぶっつけ本番で出場しました。一本目に6m82という自己新が出たので、「これはいけるかな」と思ったのですが、二本・三本目とファウルしてしまい、結局予選落ちでした。

八月三日。加藤隆志(三年)の四〇〇Mハードルの日でした。第三コーナーまで一、二番だったのですが、直線に入ると向い風も災してどんだん抜かれ、惜しくも六着(58秒9)で予選落ちでした。この日から雨が降り出し、寒いインターハイになってしまいました。

八月四日。四×四〇〇Mリレーと一〇〇Mジュニアハードルの行われる日で、雨はやまず宇和島の方では国鉄が不通になる程の大雨で、しかも気温が低く、最悪のコンディションとなりました。四×四〇〇Mリレーは、三年三人・二

年一人の編成ですが三年生の関東大会以後の練習不足がたたってか、ベストよりも四秒以上も悪い記録で予選落ちでした。ベストより二秒程悪くても準決勝へ進めたので、大変惜しいレースでした。そして、私の一〇〇Mジュニアハードルの予選です。目を開けているのが苦しい程の土砂降りでしたが、14秒95という自己ベストで準決勝進出を果しました。

八月五日。大会最終日。九時四〇分からの準決勝に備えて五時三〇分起床、雨は依然やまず、体も昨日より重く感じてしゃきつとした気分になれないまま競技場に向かいました。

しかしいざ走ってみると、スタートはジャストミート、第五ハードル位で自分がトップであるのを確認し心の中で「何でもたまたま走ってんだらう」と思いながらそのままゴール、タイムは14秒77とまたまた自己新です。「やった、これで決勝だ」と思いながら滝沢先生の下へ、先生に「永井、ここまできたら賞状でも持って帰るべえ」といわれ、「よし、やっただえ」という気分になり胸の高鳴りを感じました。

決勝には、桐生南高校の田村も進出していたので心強く、他の顔触れを見ると千葉・成田高校や三重・宇治山田商業高校など名門校の選手が目につきました。

「このレースが最後だ。これで私のインターハイも終りなんだ」と自分にいい聞かせてスタートラインに立ち一〇台のハードルを眺めると、ハードルが低く感じて一瞬、無の境地を感じました。そしてスタート、出遅れてびりっけつを走って

回・応援部)が引き受けられ、副会長からのそれぞれの提案議事は全部承認・可決された。

引き続き行われたパーティーも例年に優るとも劣らずにぎやかであり、中沢校長もこういった会の存在するのを大変喜んでおられた。

約二時間後、「翠巒」の奇唱が烏川を隔てた観音山にこだまし、白髪を交えた紅顔はそれぞれ深夜の街に吸い込まれて行った。

(五七回・ラグビー部  
高崎信用金庫東支店)

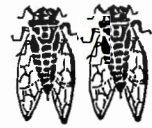


いる様でした。でも後半は自分でも信じられない程ぐんぐん加速してゴールの前に五人見えたので六位だと思っていると放送で四位と知り、優勝した田村と飛び上がって喜び合いました。タイムは14秒72、これまた自己新でした。滝沢先生も皆喜んでくれましたし、これで何よりの土産が出来たと思えました。入賞の要因を考えてみると、調整が良かったこと、ゲークホースなのでプレッシャーがなかったこと、それと持前の心臓の強さだと思えました。

八月六日。お昼に広島に到着、半日自由行動で宮島や平和記念公園へ行き、二時三〇分の夜行で帰りました。最後に、応援して下さった皆さん・先生方、大変有難う御座いました。

### 先輩、頑張ってます

現役の活躍 その2



#### 無念 準決勝進出果せず ——インターハイ——

#### 陸 上 部

三年 加藤 隆志

七月三十一日に愛媛・松山市に入り、翌日は競技場の下見をしてサブグラウンドで軽く汗を流し体調を調えた後、一日休息を取り、いよいよ大会二日目を迎えました。

この日は、朝から愚図ついた空模様で風も強くはだ寒くさえ感じる日でした。出場種目の四〇〇Mハードルは、一〇時五〇分スタートの予定でしたので九時頃からウォームアップを始めました。「今日は気温が低いからアップを少し太目にしておけ」と滝沢武司先生の指示もあったので、かなり着込んで自分でも過度に思える程まで続けました。

競技開始三〇分前に召集が完了、ハードルが並べられ、スタートを待つばかりとなりました。選手名を告げるアナウンスがあり、ピストルが鳴って一せいにスタート。二コースだったため他の選手の走るのが良く見えて、一台目はトップで越え、二台目・三台目と好調でした。ところが向い風が強く、六台目までハードル間を一五歩、その後一七歩の予定だったのでかなりオーバーペースになったらしく、七・八台目辺りから後退し始めました。ラストスパートも伸びず、結局六着で準決勝進出は果せませんでした。

風には十分気を配り頭に入れた上で歩数を決めておくべきだったと少々悔いが残ったのですが、天候を考慮に入れたレース運びやペース配分の大切さを痛感させるレースだったと思います。

#### 吉見歯科分院

#### 吉 見

登(六一回)

高崎 市 柳川 町  
カナルハイツ  
電話〇二七三(二六)二六二三

と思います。

とはいえ、レースの前に、四人で「頑張ろう！」などと励まし合った事は一度もありませんでした。しかしレースに臨んでは、皆一生懸命に走ります。そして自分の前の走者がラストの一〇〇mを最後の力を振り絞って頑張っている姿を見れば、そんな言葉など無用です。むしろこうした態度で示す事で、団結力もより強くなったと思います。

こうして勝ち取ったインターハイ出場も、四人の力だけで取ったのでは決してありません。四×四〇〇Mリレーは、大会の最終種目で、一番注目される種目です。部員は総出で応援してくれて、この時、高々陸上部は一団となり我々を勝利に導いてくれます。この応援がなければ、恐らく今回の偉業は達成出来なかったのではないかと思います。

そうした部員の期待を担い、我々は愛媛・松山市で全国の精鋭と戦って来ました。全国の壁はやはり厚く、結果は予選落ちという惨めなものでした。しかし、台風の影響で土砂降りの雨の中を走って全身びしょぬれのメンバーの顔は、予選で落ちた屈辱や後悔ではなく、むしろ精

#### 昭和五四年度 高々運動部活動状況

#### 柔 道 部

◇学年別選手権大会	(五四・五)
三年の部 武井信生	ベスト8
◇県総体・関東大会県予選	(五四・五)
高々3——0中央	一回戦
高々4——0長野原	二回戦
高々2——2伊勢崎商 代表戦	三回戦
高々0——3利根商	四回戦
◇全国総体県予選	(五四・六)
団体	
高々4——0伊勢崎工	二回戦
高々1——3太田工	三回戦
個人	
軽量級 石川秀明(三年)	ベスト16
中量級 武井信生(三年)	ベスト16
重量級 高橋 徹(三年)	ベスト16
◇国体県予選	(五四・七)
86kg級 篠原和弘(二年)	一引分四敗 六位
◇新人大会	(五四・一一)
高々1——4樹徳	二回戦
◇関東新人大大会県予選	(五四・一一)
高々2——0太田	一回戦
高々0——4東農大二	二回戦

一杯やったのだという満足感で満ちあふれていました。

#### 団結力の勝利 ——インターハイ——

#### 陸 上 部

三年 反町 達行

陸上競技は、周知の通りそのほとんどが個人種目です。しかしリレーという種目は、野球やラグビーの様な団体競技の性格を備えています。そして試合に勝つためには、もちろん個人の力も大切ですが、それ以上にチームが一致団結しなければならぬのはいうまでもありません。今回、他校との大きな練習量の差を克服し、インターハイ出場を果した事は、当にこの団結力によるところが大きかった



### 雨中のインターハイ

#### 硬式庭球部

二年 林 正和

昭和五五年度全国高校総体は、四国で開催されました。庭球競技は、愛媛・松山市で八月四日から七日にかけて行われました。

八月二日。山口富士生先生（保健体育科）と高崎をたち、東京で新幹線に乗り広島へ向かいました。新幹線では、新島学園顧問の竹内俊雄先生（高々クラブ嘱託）や新島学園の選手達と一緒に乗ったので楽しく過しました。広島から水中翼船に乗り、松山へ向かいました。僕は、新幹線に乗るのも、水中翼船に乗るのも初めての事だったので楽しくなりました。旅館に着くと、群馬の選手が一緒だったのでとても安心しました。

八月三日。近くのコートへ行き、二時間練習しました。隣りで関東大会の優勝者が練習していたので、とてもやりにくかったです。

八月四日。一日中雨が降っていました。一度は会場へ行ったのですが中止となり、旅館へもどりました。この日は軽く汗をかき、明日に備えました。

八月五日。この日も朝から雨でした。旅館にいます。試合を行うというので急いで会場へ駆け付けました。コートは全天候型なのですが、試合の出来る状態ではなく、アップも少ししか出来ません。一回戦。相手は大分県の選手です。試

合前の練習で、「中々手ごわいぞ」と思いました。相手のサーブで試合が始まりました。地面がぬれているので、サーブはとても有効的です。たちまちリードを奪われ、3-5のスコアになりました。しかし重要な所を決めて逆転し、7-5で勝利を収めました。勝因は、後半自分から強く打っていった事だと思います。

二回戦。相手は高知県の選手で、この試合は最初から打って行く事を心掛けました。しかし思う様に行かず、転倒しました。敗因は、サーブをキープ出来なかった事です。

このインターハイを土台にして、来年はもっと飛躍したいと思っています。

### インターハイ

#### 軟式庭球部

二年 須藤 昭利

予想していなかったインターハイに出場出来たという事は、私にとって良い経験となりました。

特に感動した事は、広々とした競技場での開会式における人文字で、高校体育連盟のマークに表されている3K—力(KRAFT)・技(KUNST)・明朗な精神(KLAREHEIT)の文字が歓声と共に色鮮やかに描き出されたのを覚えています。また、皇太子殿下・美智子妃殿下の励ましのお言葉を頂戴し、選手宣誓の言葉は若々しく力強く今の青春の姿というものを訴えていました。そし

て、これらの言葉に深く感動し、群馬代表と共に、私の青春の思い出として悔いなく精一杯戦う事を心に誓いました。更にうれしかったのは、群馬県は個人戦で六組(二人)、団体戦で一校四組(八人)しか出られず、三年生がほとんどという中から、二年生として出られた事です。

結果としては三回戦で敗退しましたが、この次の機会にはこれ以上に良い成績を取りたいと思っています。また、個人戦だけではなく、団体戦も優勝を目指し出場出来る様に軟式庭球部の友と共に希望を込めて頑張りたいと思います。

### インターハイと国体に出場して

#### 水泳部

三年 齋藤 政宏

インターハイは、八月一八日から二日まで徳島市で開かれた。行きは、群馬の仲間達と一緒に岡山経由、フェリーで高松、そこから列車で徳島というコースであった。

二〇日に僕の出場する一〇〇M自由形のレースがあった。それまでは練習したり、その合間に方々を見学した。丁度阿波踊が終わった後だったのだが、わざわざ僕らのために披露して下さった。やはりこういう遠征試合の一つの楽しみは、観光が出来るという事だと思う。さて結果だが、今年七月の腰の故障で十分なトレーニングが出来なくて、精神的にも迷いがあり、納得出来る様な記録は

出なかった。一生懸命応援して下さった丸山博先生(六八回・保健体育科)に申し訳なく、最後のインターハイを飾れなくてとても残念だった。

帰りは皆とは別々になったが、丸山先生と僕は、淡路島を通り明石に出てそれから姫路城を見学して帰途に着いた。

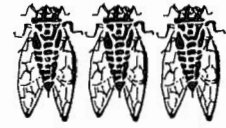
国体は、九月七日から一〇日まで栃木・宇都宮市で開催された。今年の僕のベストタイムは、六月に出した57秒7。それからずっと停滞していたので、最後のチャンスは国体ではと思いついて調整してきた。結果は57秒8、わずかな差で記録更新が出来なかった。しかし、二〇〇M混合リレー(三〇歳以上・成年・少年A・Bによる五〇Mずつのリレー)では、ぎりぎりの所で決勝進出を果たした。全員チームワークの勝利だと思ふ。

国体には、群馬県チームとして参加している。そして、個人のスポーツといわれる水泳が、県単位で競われる所に国体の魅力があると思う。他の事はすべて忘れ、選手・応援団共にレースに夢中になる光景はとても感動させられる。どの大会でもそうだが、国体のあのお祭騒ぎ、特に決勝などの騒ぎはものすごい。それを見てると、自分も決勝に出てあの歓声の渦の中に巻き込まれたい気分になる。頑張りたいと思う。

こんな訳で今年は記録的には不振の年ではあったが、とても有意義な一年だったと思う。何はともあれ、素晴らしい経験が出来たと高校生活を振り返る次第である。これから大学へ行って水泳を続けて行きたい。

## 先輩、頑張ってます

現役の活躍 その3



## 第三五回栃の葉国体に出場して

## 剣道部

三年 柳田 昌彦

「栃の葉」をテーマとした第三五回国民体育大会(秋季)は、一〇月一二日より栃木県民の暖かい歓迎のもとに開催された。一二日には、宇都宮市の総合運動公園陸上競技場において開会式が行われ、一三日からは、五日間にわたる競技がそれぞれ会場で一せいに開始された。

僕の出場した剣道は、一三―一五日の三日間、日光市体育館で行われた。まず、群馬県少年チームのメンバーを紹介して置く。先鋒大塚(高崎工業高校)・次鋒原田(東京農業大学第二高校)・中堅柳田・副将梅山(前橋商業高校)・大将滝野(高工)、そして永田(高工)・新井(前商)が控の選手である。今年は五月

に行われた県高校総体の時に国体候補選手三〇名が選抜され、我々七名はその中から更に試合をして最後まで勝ち残り晴れて国体選手に選ばれたのである。国体までの四ヶ月間というものは、夏休を中心として、とにかく毎日が練習の連続であったのだけれども、常にこの七名の協力と励ましがあつたればこそその長い苦しかった練習にも最後まで耐え抜く事が出来たのだと思う。

さて、一回戦の対大分戦は、我々が剣道の本場である九州の強豪に必死に食い下がり、非常に緊迫した試合展開となった。先鋒戦では最も調子が良い大塚が我々の期待を裏切つて痛い一敗を喫したものの、続く次鋒原田と中堅の僕がいずれも二本勝を収めて試合を有利にした。しかし、副将戦で梅山が延長戦の末に惜しくも敗れ、結局、最後の望みを大将戦に託す事になった。滝野は、この大事な場面でも彼の持てる力を十二分に發揮して我々の期待に添えてくれ見事に相手のすきを突いた抜胸を二本先取し、我々は、大分を振り切つて念願の二回戦へ進出する事になった。

二回戦の相手は鳥取県だった。この試合は、波に乗る我々の一方的な試合展開となり、全員二本勝という全く信じられない様な結果で完勝した。

続く三回戦では、いよいよベスト8を懸けて、愛媛県と対戦する事になった。

二回戦での彼らの試合を見た限りでは決して我々が勝てない様な相手ではなく、事実、我々が押し気味に試合を進めほとんど先に一本を奪取していた。しかし、

試合内容とは裏腹に、結果の方は全く思ひもよらぬ程の大差となって現れた。先鋒・次鋒・中堅がいずれも一本を取つておきながらも最後の粘りに欠けて三連敗を喫し、この時点で早くも試合の決着が付いてしまった。それでも、副将・大将が奮起して、何とか全敗する事だけは免れた。

しかし、決して落胆はしなかった。国体において、自分の持てる力を全部發揮する事が出来た、しかし結果として二勝する事が出来たという事は、僕にとつて十分過ぎる程満足だったのである。「苦勞はいつか報われる。そして、それが実現した時の喜びは何物にもたとえ難く大きい」。正にそれが実感だった。思えば、国体までの道のりは決して楽なものではなかった。しかし、その中から得られたものは非常に大きかった。僕は、国体に出場して得る事が出来た様々な貴重な体験を、これからの人生の一つの教訓としていつまでも大切にしていきたい。そして、この栃の葉国体に出場出来た事を、高々三年間の最大の思い出として未長く心の片隅にとどめておきたい。

## 思い出深い国体出場

## 硬式庭球部

二年 林 正和

僕は、第三五回国民体育大会(秋季)の庭球競技少年の部に出場出来た事を大変うれしく光栄に思っています。戦績は初戦敗退とさえないかったものの、何か大

きなものを関東ブロック予選でつかみ取った様に思っています。

県予選で勝ち上がった僕と須田君(前橋高校)が、それぞれのシングルスと二人のダブルスの三ポイントで関東予選に出る事になりました。前評判では、庭球は本大会に出場不可能という事でした。しかも少年の部は、関東で三都県しか出られないのでもとて厳しいものでした。しかし僕は、何とか国体に出場しようと多くの練習を重ねて関東予選に臨みました。

関東予選の一回戦は、埼玉県と当りました。埼玉は、立教高校が主力で、関東三強の一つです。我々は、1―2で惜しくも敗れてしまいました。

しかし、まだ敗者復活の三位決定戦があるので気を抜けません。三位決定戦の一・二回戦は、千葉県と茨城県で意外と楽に勝ちました。そして、いよいよ三位決定戦、相手はまた埼玉県です。接戦で、勝敗はダブルスに掛つて来ました。ダブルスでは弱い方を徹底的に攻める作戦が当り、何とか勝つ事が出来ました。うれしくて飛び上がつて喜び合いました。前評判を覆した事がとてもうれしかったです。

国体は、栃木県で開催されました。開会式の入場行進の時は、目頭が熱くなりました。試合は北海道に敗れてしまいましたが、本当に意義の大きい国体出場でした。

これからは、国体選手としてのプライドを持ち、その名に恥じない様に頑張りたいと思っています。

### 「あと二回」の長さ — 秋季関東大会 — 野 球 部

二年 佐藤 誠司

我が高々野球部は、一〇月上旬、秋季関東大会県予選において優勝し、茨城・水戸市で開かれる関東大会に出場する事になった。

一五校集まったが、さすがに各県の代表である。驚かされる事ばかりだ。まず、体付きからして違う。縦にも横にも大きい。この体でボールを打つたらさぞかし飛ぶだろう。次に驚くべき事は、テレビで顔なじみの男達がうじやうじやいる自分達には、ちよつと場違いではないかとさえ感じた。

二回戦、最も苦しかった国学院大学栃木高校との戦い。自分のエラーから点を取られてしまい負けそうになったが、何とか皆がカバーしてくれた。七回頃から毎回スコアリング・ボジションにランナーを進められ、ピンチの連続。やはり栃木県の代表である。簡単には勝たせてくれない。相手のバントミスなどで助けられたが、試合時間は約三時間。心身共に本当に疲れた試合だった。三時間、恐らく人間が緊張に耐えられる限界だろう。

明くる日、昨日の疲れも取れないまま準決勝。甲子園には関東から三校選抜されるが、この試合に負ければ絶対に出場出来ない。絶対に負けられない、いや勝つんだという気持で臨んだ。二点を先取して勝てるかと思つたが、またしても八

九回ピンチの連続。川端俊介(二年)の落ち着いた投球でピンチを免れたが、何と長かった二回だったろうか。こんなプレッシャーの連続では、本当に神経が参つてしまふ。早く家に帰つて寝たいと思つた。

結局、決勝では負けてしまい二位で終つたが、こんな下手くそのチームがよくあそこまでやれたと驚くばかりである。それというのも、自分達はよく知つていたのである。県予選で第一シードに選ばれた時でも、決してそんな実力がある訳ではなくもつと頑張らねばと思つたし、関東大会出場が決つた時でも、関東の人々に胸を張つて見せられるチームではないと思ひ更に練習を重ねた。これといつて目立つ選手もいないし、体も小さい。しかし、負けん気はある。それでいいのだから。もし選抜大会出場が決つたら、またこの気持で臨む。



第33回秋季関東大会(水戸市) 準決勝 高々一日立工戦 (S56・11・5)

### 関東大会に参加して 山 岳 部

二年 新井 康幸

一月八日(一〇日、茨城県で行われた関東高校登山体育大会)に行つて来ました。大会の開かれた奥久慈山塊というのは、茨城県の北西部、標高六五四mの男体山を中心とするならかな高原台地です。まあ、観音山と大した違いはなく、大会でもなければちよつと行く気にはなれない様な所でした。

さて、一月八日は、朝早く高崎を出て半日以上も列車に揺られ、久慈郡太子町で開会式、そしてそのままバスで露營地へ。なんだか、護送されている様でした。

一月九日。男体山を登つて袋田の滝に下山。露營用具などはトラックで一足先に次の露營地に行つているので、こちらはサブザックのみ、完全にハイキング気分でした。ただ、一二〇mの高さを落とす袋田の滝は、さすがに見ごたえがありました。見学に金を取られるのには気をそがれましたが。

一月一〇日。バスで水戸に出て、後は一路高崎へ。

この大会は、フェスティバル形式で成績評価はなく、はっきりいってお祭みたいなものでした。だから、余り山に行つたという気がしないのです。しかし、他県の山岳部とも親しくなれましたし、茨城という土地を知つただけでも良しとすべきかも知れません。

### 昭和五四年度 高々運動部活動状況

#### ラグビー部

◇県総体・関東大会県予選(五四・五)

高々28 — 19 前橋南 二回戦

高々48 — 4 太田 準々決勝

高々7 — 12 中央 準決勝

◇関東大会 横浜市(五四・六)

高々9 (0 — 30) 53 埼玉・熊谷

◇全国大会県予選 (五四・九) 二回戦

子選リーグ 二勝一敗 (Dブロック二位)

決勝トーナメント (Dブロック二位)

高々71 — 3 太田 一回戦

高々37 — 0 伊勢崎東 準決勝

高々7 — 19 東農大 決勝

◇新人大会 (五四・一) 五回戦

子選リーグ 五勝(Cブロック一位)

決勝トーナメント

高々52 — 0 太田 二回戦

高々38 — 11 東農大 準決勝

高々9 — 3 桐生 決勝

◇八人制大会 (五五・一)

高々24 — 4 高崎南 一回戦

高々18 — 0 渋川西 二回戦

高々30 — 10 太田 三回戦

高々12 — 4 前橋南 準決勝

高々24 — 0 太田工 決勝

# 先輩、今年も頑張ります

## 現役の抱負

その1



部としての初勝利を目指して

### 硬式庭球部

二年 林 正和



この度、硬式庭球同好会を部に昇格させて頂き有難うございました。諸先生の御理解、OB・生徒会皆様様の御協力によって昇格出来ました。本校のOBには、故清水善造氏(七回)という名プレーヤーがいます。これからは、清水氏の名を汚さぬ様に、部としての自覚を持ち規律を守り、同好会での最高戦績(県高校総体準優勝)を追い越し県総体優勝(インターハイ出場)を目指して頑張りたいと思います。

三年生が引退して、もう半年が過ぎました。我々は新メンバーになってから、先輩達の良い練習方法を受け継いで一生懸命頑張ってきました。そして、新入大会団体戦で準優勝する事が出来ました。しかし、二位に甘んじていてはだめだと思えます。そして、県総体優勝を合言葉にして、部員が一丸となって頑張っています。

テニスでは冬の間はオフシーズンといわれておりますが、我々はテニスにオフシーズンは無いと思っています。この冬の間には厳しい練習を積み体力を付けた者が来春の栄光を物にするのだと思い、ランニングや筋力トレーニングをしたりして体力強化に努めています。一・二年生と一緒に頑張っているのです。先輩・後輩の信頼関係がとて強く来て来ています。顧問の先生方もよく練習を見に来て下さり指導して下さいるので、自然と練習にも熱が入ります。

我々は、冬の間には体力を付け、春体には合宿を行い、万全の体勢で県総体に臨む心算です。そして、何んとか高々のために貢献したいと思っています。

### 卓球部

#### 卓球部

二年 竹鼻 義昭



現在、卓球部員は二年三名・一年一六名である。それに対し卓球台は五台しかなく、どうしてもボールを使った練習が不足勝ちになっている。また、練習場の広さも高校生の卓球には少し狭く、天井も低く、床は北側が大分傷んでいる。練

習時間・施設面において、やや他校に劣っている感じである。しかし、そんなことはいってられない。ここ数年の県高校総体での成績を振り返ってみると、団体では、昨年三回戦敗退と振わなかったものの、一昨年まで三年連続ベスト8と頑張っているのである。

ところで、我々の新入大会団体での成績は三回戦で前橋商業高校に敗れているが、県総体では何んとしても三回戦を突破してベスト8に進出し、個人・ダブルスでは関東大会に最低一人位出場することを目標にしている。

高々運動部活動状況		昭和五十四年度	
<b>陸上部</b>			
◇県総体・関東大会県予選(五四・五)			
四〇〇M	斉藤 新吉(三年)	50秒7	四位
一〇〇M	ジュニアハードル		
	永井 正樹(二年)	15秒2	一位
四×一〇〇Mリレー	高々(田口・斉藤・加藤・永井)	44秒3	三位
四×四〇〇Mリレー	高々(内田・加藤・反町・斉藤)	3分26秒6	三位
◇学校対抗 二部 (五四・九)			
二〇〇M	得点58		一位
四〇〇M	斉藤 新吉(三年)	23秒20	五位
	加藤 隆志(二年)	51秒03	一位
	斉藤 新吉(三年)	51秒85	三位
	一〇〇Mジュニアハードル		
	永井 正樹(二年)	15秒32	二位
	加藤 隆志(二年)	15秒52	三位
四〇〇Mハードル			
	加藤 隆志(二年)	58秒25	二位
	内田 行宣(二年)	58秒99	三位
四×一〇〇Mリレー			
	高々(田口・斉藤・加藤・永井)	43秒56	一位
四×四〇〇Mリレー			

精一杯の努力

剣道部



二年 光山 直之

昨年の夏より先輩の後を引き継ぎ、毎日の練習に精一杯打ち込んで来ました。

部長という大役を引き受け、最初の頃はとまどう毎日でした。しかし、最近になり、自分の行くべき仕事や課せられた責任に対する自覚という様なものも生れて来ました。そして、平生の練習はもとより合宿生活などを通じて、部全体も更にまとまって来た様に思われます。

今年度の練習は、昨年度に比べると、かなり基本中心であるといえます。技の練習においては、ほとんど面・小手に絞られ、掛り稽古の割合も増大しました。すべて、力の足りない我々に対する別府重竜先生(国語科・剣道)のお考えだと思われまます。また今年、OBの方々のみならず、早くも大学に推薦入学された在学の先輩方も我々と共に竹刀を握り汗を流して下さるので、とても勉強になります。すし心強く感じられます。

高々剣道部の練習時間は、他校に比較すれば、かなり短いものと思われまます。しかしその中で、各人の持つ力を最大限に発揮するのが高々であり、それが出来る唯一の高校が高々であると確信しています。当然の事ながら、その内容は、凝縮された濃く辛いものになります。

我々は、別府先生を始め諸先輩の厚い誠意に答えるがために、また古くから今

日に続く高々剣道部の名替のためにも、残された月日を悔いを残さぬ様に部員一人丸となって頑張ら行きます

今を大切に

水泳部



二年 松井 高志

水泳部のシーズンオフは長い。そして、シーズンオフにどう練習するかが大会での好結果につながる大きなかぎになるといつてよい。その長い期間に、筋力・体力を付けなければならぬ。

水泳というのは、特殊なスポーツだと思う。水の中の練習以外にはどういう練習が最適なのか、今だに自信を持っていない。そこで我々は、色々なスポーツをして体を鍛えている。そして、時々ゲームをしたり遊んだりもする。どんな事をしてても体を動かせば、筋力も付くし自然と体力も付いて来ると思うからだもちろん、マラソン・懸垂・柔軟体操など欠がさずしている。

しかし、ここ数年 成績は下降気味である。個人ではインターハイ・国体と出場した選手が出たが、団体は県高校総体二年連続三位という結果に終わってしまった。今年こそ優勝を果したい。そのためには、一日一日、今現在を大切に、悔いのない様にすることが必要だと思ふ。今を大切にすれば、すなわち過去に悔いを残さない事になるのだ。この事は、何事においてもいえるだろう。今を大切に

する”この言葉の下に、県総体優勝を目指して頑張りたい。

高校生登山の限界

山岳部



二年 新井 康幸

現在の高校山岳部を考える時、どうしてもその質の低下を認めざるを得ない

他県はどうだろうか？群馬においては、最近、一段と規制が強まり、雪上露営さえ許されない状態なのである

高々山岳部は、そうした中で精一杯の努力をして来た心算である。現在までに夏山合宿と冬山合宿が終った。両方共大いに恵まれず、夏山合宿に至ってはほとんど計画を実行する事が出来ないという惨々たる結果となったが、それをただ失敗とする事なく歩み冬山合宿も何とか無事に終了した

しかし、先の事を考えると非常に頭が痛い。部員数の減少、春山合宿、顧問の問題などがうっ積しているからである。これから、一つ一つ着実に解決して行きたい。

高々(内田・加藤・反町・斉藤)	走幅跳	3分29秒6	一位
永井 正樹(二年)	砲丸投	6 m 63	一位
関口健一郎(二年)	丸盤投	11 m 72	四位
萩原 泉(二年)	住谷 悟(三年)	10 m 80	六位
伊勢川 光(二年)	ハンマー投	31 m 98	六位
須賀 正美(二年)	ハンマー投	43 m 80	二位
内田 行宣(二年)	〇・二年生大会	(五四・)	
永井 正樹(二年)	〇・M		
加藤 隆志(二年)	須賀 正美(二年)	11秒 95	六位
高々(須賀・反町・加藤・永井)	内田 行宣(二年)	52秒 49	三位
高々(内田・萩原・反町・加藤)	〇・Mジュニアハードル		
飯田信一郎(一年)	永井 正樹(二年)	15秒 26	一位
関口健一郎(二年)	四・Mハードル		
伊勢川 光(二年)	加藤 隆志(二年)	57秒 1	一位
	四・Mリレー		
	高々(須賀・反町・加藤・永井)	43秒 93	二位
	四・四 Mリレー		
	高々(内田・萩原・反町・加藤)	3分30秒 1	二位
	二段跳		
	飯田信一郎(一年)	12 m 69	二位
	砲丸投		
	関口健一郎(二年)	11 m 85	四位
	ハンマー投		
	伊勢川 光(二年)	45 m 12	一位



# 先輩、今年も頑張ります

## 現役の抱負 その2



### あの瞬間をもう一度

#### バレー部

二年 浜田 敏之



バレーボールに限らずスポーツをやる以上は、誰もが優勝をまず目標とするでしょう。そして、日々練習を積み重ねて、少しでも目標に近付こうとします。それでは、なぜ優勝したいのでしょうか。恐らくそれは、勝った瞬間に何もかも忘れてしまう一時があり、その瞬間を体全体で喜び味わうためにスポーツマンは優勝したがるのではないのでしょうか。

昨年のチームは、最後の試合であるインターハイ県予選で、宿敵高崎商業高校を破って栄冠を手に入れました。あの時はバレー部員が一つとなって喜べたし、普段ボール拾いをやってくれていた選手も

同じ気持で喜べたに違いありません。そして、勝ったチームしか味わえない喜びを得ました。

今年も一二月に、全国選抜大会予選を控えています。チームメイト一人一人の気持が一つになりつつある今、今年こそはと頑張っ練習しています。OBの方々が激励や指導に見えて下さり、部員一同大変感謝している次第です。その先輩やお世話下さる諸先生の期待に答えると共に、この高々バレー部の伝統をより輝かしいものにし後輩に遺すためにも全力を尽して頑張りたいと思っております。是非、応援して下さい。

最後に、やるからには必ず優勝をねらいます。インターハイ県予選あの瞬間をコートの中で味わった二年生がいるので今度は中心となり、一諸にこれまでやって来た仲間と共に全国選抜大会の出場権を勝ち得たいと思っています。部員一人の気持が一つになる時、再びあの瞬間が訪れるでしょう。

あの瞬間をもう一度！  
伝統より更に栄えあれ！

### 自分の意志で走る

#### 陸上部

二年 内田 行宣



昨年、インターハイに七名を送り込み入賞をも果し、県学校対抗では一部で堂々五位に入った高々陸上部の練習は、その成績に比して実に少ないものです。そ

れにもかかわらずこれだけの成果を挙げることが出来たのは、練習が各人の自主性に任せられているという事が、短時間に効果的な練習をさせ、試合においても力を発揮する根源となったからです。この様な練習形態は、高々陸上部ならではのものであり、僕達の特性を充分に生かしたものだといえるでしょう。今年はこの練習形態を更に深め、より高い成果を挙げ

る事を目指しています。ブロックごとに自分達でスケジュールを立てそれを実行して行く事は、大変意義があると思えます。

しかし、何といっても僕達の練習が認められるためには、立派な成績を取めなくてはなりません。僕達の努力は、次の二つの目標に絞られています。

まず、インターハイ出場者を今年も出す事です。伝統を引き継ぐために、去年の入賞に続いて行かねばなりません。

そして最大の目標は、一部に絶対残る事です。昨年に比べ、総合力が劣っている事は否定出来ない事実です。けれども、例年になく多数の部員を抱え、立派な設備にも恵まれ、向上のための好条件がそろった今、一部残留は決して不可能ではありません。部員一同が全力を尽せばきっと出来るはずですよ。

陸上競技が地味である理由の一つは、練習の成果が現れるのに非常に時間がかかる事でしょう。冬の努力は翌秋になって初めて実るものです。それだけに、しっかりとした意志と目標を持つ事が必要なのです。開花するのが困難な僕達の努力を見て下さい。

### 歌おう！「庭球の歌」

#### 庭球部

二年 森岡 直



今年の軟式庭球部は、近來まれな力を持っていてと思います。個人戦では、一年生大会二連覇。特に今年は一・二・三位と上位を独占する快挙をなし遂げました。また、新人大会でも三位に残った組もあり、その他のほとんどの組もベスト32以内に残り、関東大会・インターハイをねらっています。団体戦では、二度の大会で二度までも二位という結果でしたが、次回は必ずとねらっています。

新チームになってからは県外へ遠征する様になり、高校軟式庭球界の王者、東京・巣鴨高校へは二度も行って参りました。高校一位の巣鴨を見られたこと、その上、試合まで出来たことは、我々にとって一生の思い出になります。そして、もう一步の団体戦優勝にあの巣鴨での教訓を生かしたいと思っています。

また、軟式庭球部が他の部に誇れるものは、「庭球の歌」という部歌があることです。私は、一年生の時、生徒手帳の中に「庭球の歌」だけが部歌として載っているのを見て、軟式庭球部の部員である自分を誇りに思いました。八一年は、是非共優勝し、全員で円陣を組みこの由緒ある「庭球の歌」を歌い、多くの思い出を作って行きたいと思えます。



甲子園での応援に当って

応援部



二年 藤井 正弘

選抜高校野球大会の出場も決って、俺達応援団は当然の事ながらそれに向けての練習を毎日行っている。この応援団は応援部員が少数なので現在臨時部員を集め、毎日の練習の内容も大体臨時部員の訓練が中心となっている。臨時部員にはやる気のないやつはいないから、実際に甲子園で応援するのに当ってよくやってくれる事だろう。また、そう期待している。正部員は全力を尽すだろうし、臨時部員もそうするだろう。だとすれば、後は生徒全員とOBなど一般の人の協力が是非必要だ。その協力がなければ、幾ら応援団の方で頑張ってもこちらの人数は高が知れているので、素晴らしい応援」といふ訳にはいかないだろう。だから、是非、部員以外の協力が要だ。

部員以外の協力といっても、これまでの試合の応援でしょっちゅうあったが、一般の人が横から「あれをやれ、これをやれ」とぎやぎやあいつてくるのには物すごく腹が立つ。俺達は、いかなければ応援のプロで、一般の人から命令される筋合は全くない。少なくとも、俺達は大体どういう場面でどういう事をやったらいいかは分っている心算だから、そういう一般の人からの指図は耳障り以外の何物でもない。特に甲子園の様所では、統制を執るため命令系統を完全に単一化

しなければならぬので、そういう事はやめてもらいたい。最後に、野球部には、是非頑張って勝ち進んでもらいたい。

部員獲得を目指して

体操部



二年 萩原 明

現在の体操部は、部員一名という極度な部員不足です。一昨年が四名、昨年中学校時代に体操部だった生徒に入学を勧めましたが誰も入りませんでした。この様な訳で、今年の前橋高校との定期戦に体操競技はありませんでした。また大会は、チームの規定人数が四名なので出場も覚つきません。他の部の活躍が目覚しく、それだけにどうにかしなければならぬと思うのですが現状ではどうする事も出来ません。一人で頑張っている事も出来ませんが、最近では自分の限界を感じてやる気も失い掛けて来ました。こんな風に、やる気を無くしてはいけません。と思いつついるのですが、多くの先輩達によって今まで続けられて来た体操部を自分の時代で絶やす事だけは避けたく、毎日自分を責めたり励ましたりしています。

どうしてこれ程までに、部員の数が増えたり減りましたのか。自分にはよく分りません。例えその事が分ったとしても、部員は増えるのかさえも分りま

せん。中学校時代に体操部を経験した人やそうでなくても上手い人は幾らでもいるのに、どうして体操をやろうとは考えないのでしょか。その前に、部員である自分が大いにやる気にならなくてはならないでしょうが。現在はこんな状態ですが、何とかやる気のある部員を多く集め、これからの体操部の発展を信じて地道に頑張るつもりです。

良き先輩のためにも

バスケット部



二年 小林 義則

我々は、昨年と同じメンバーで新年度を迎える二年目のチームです。

一昨年の冬、我々の一期上の先輩は、戦績の不振という理由で現役から引退されました。これから先輩を中心にした新チームが活躍するという時の事でした。先輩は、「俺達では力不足だ。でも、お前らなら今年が無理でも来年になれば必ず制覇出来るだろう」といって、新生チームを陰ながら支えてくれたのでした。

それからは、一年生だけの練習が始まりました。見習うべき先輩のない我々はお互いに注意し合い意見を出し合って技の向上に努力しました。熱が入り過ぎてけんかも幾度かやりましたが、試合には先輩の期待に添う様に全員が一丸となって頑張りました。けれども、学年差のハンを背負ってのチームでは力及ばず、

インターハイ県予選ベスト4が精一杯でした。

どの様な条件にせよ、伝統ある高々バスケット部は、常にリーグでなければなりません。前年のレギュラーメンバーをすべて残している我々は、現時点において、国体県予選優勝、続いて県強化大会優勝、新春に行われた新人大会兼全国選抜大会県予選は全勝優勝と勝ち進んでいます。それは、勝ちたいという欲望からではなく、勝たねばならぬという気持ちからなのです。

目下、我々は全国選抜大会出場に向かって練習に励んでいます。これからも、諸先輩が築いて来られた高々バスケット部の輝かしい歴史を守る様に力一杯戦います。

ダスキノウメザウ

常務取締役

梅 沢

徹(六五回)

藤岡市小林四五一―一  
電話〇二七四(三)四四四一

衣料品総合問屋

有限会社 須藤商店

専務取締役

須 藤 順

一(六七回)

高崎市問屋町西一―二一五  
電話〇二七三(六)二〇〇五五

# 先輩、今年も頑張ります

現役の抱負 その3



## 優勝を目指して

### サッカー部

二年 清水 清志



現在のチームには、個々に素晴らしいプレーを見せる選手が多く存在し、それぞれが特徴を持っています。インターハイ県予選の後結成されましたが、新人戦に向かって練習を行なっております。

サッカー部は、かつて国体に一度、インターハイに一度出場しました。そしてOBは、「そろそろ全国大会へ出場してもよいのでは」というのです。過去の数年間、実力のある選手は数多くいたのではないかと思います。しかし勝てなかった理由を考えて、僕は次の様な対策を推進しております。  
一、練習内容の悪さ。

ただシミュート練習をして、フォーメーションをして、試合をしても勝てる訳がありません。また、一日に数多くの練習をしようとして、一つの練習時間が少なくなってしまうのではないかと思います。僕は、一日に数少ない練習を納得の行くまで練習する様に心掛けています。

八月に飯野邦彦先生(社会科世界史)が監督に就任し、練習を短時間で能率よくやるという方針に変わった。だからとやる練習は、時間の浪費だという訳だ。この飯野監督は、確かに野球は余りよく知らないかも知れないが、選手の力を最大限に引き出すという点においては全国一の名監督だと思ふ。得体の知れない力を持った人だ。飯野監督が就任した事は、自分達にとって非常に幸運だった。さて、最後になったが、「俺達はやって。素晴らしい事をやってのけた。俺達は素晴らしいんだ」と野球部員全員にいたい。本当にいい男達である。一〇〇%純粹な野球馬鹿である。それでいいのである。高校三年間、精一杯やればそれでいいのである。

僕は、ミニゲームを多用し、そして練習した事を試してみたら練習試合で大会に臨む方針です。それから、顧問が四人いらっしゃる訳ですが、激しいサッカーと一緒に指導してもらえないのが高々サッカー部の問題でもあります。

## 今後の飛躍を

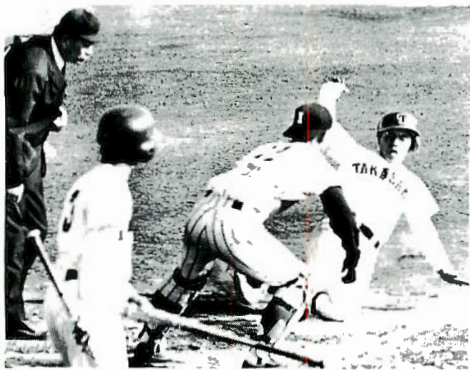
### 野球部

二年 佐藤 誠司



昨夏、新チームを結成以来、既に五月の月日が流れた。忙しく、また充実した素晴らしい五ヵ月だった。秋季関東大会において準優勝という立派な成績を残し、何とか甲子園に出場出来るというめどがあった。

この様な素晴らしい成績を残す事が出来た最大の理由は、何であろうか？



第33回秋季関東大会(水戸市) 決勝 高々ター印幡戦(S55・11・6)

績について、これで満足されては困るといふ気持もある。まだやらねばならない事は沢山ある。高々野球部主将として、自分を含めた部員の今後の飛躍を期待する。

## 昭和五年度 高々運動部活動状況

### 卓球部

◇県総体・関東大会県予選

全国総体県第一次予選 (五四・五)

ダブルス

秋沢 亘・阿部 浩(三年)

ベスト4

瀬間律夫・小園一彦(三年)

ベスト8

学校対抗

高々3 0 関東学園 一回戦

高々3 2 前橋 二回戦

高々3 0 藤岡 三回戦

高々1 3 桐丘 四回戦 五位

シングルス

秋沢 亘(三年) ベスト8

阿部 浩(三年) ベスト16

◇関東大会

ダブルス

秋沢 亘 2 松永 一回戦

阿部 浩 阿部 一回戦

◇(三年)

シングルス

秋沢 亘 0 2 神 二回戦

(三年) (東京・実践商業)



昭和56年度 高々運動部活動状況

第16回県高校総体(S56・5~11)

種目成績(男子)

種目	成績	1位	2位	3位	4位	5位	6位
陸上競技		桐生	農大二	中之条	富岡	中央	前橋工
バスケットボール		高崎	前橋	中之条 高崎商		伊勢崎東 桐生	桐生 高崎工
バレーボール		桐生商	高崎	前橋商 高崎商		前橋 中央	太田工 岡
軟式庭球		吉井	高崎	高崎商	中央	波前 前橋	館太 林田
卓球		前橋商	桐生	高崎商 中央		中之条南 前橋	樹徳 徳丘
ラグビー		前橋	太田	桐生 高崎		前橋商 波川工	太田 中央
サッカー		前橋商	高崎	館林 前橋工		中央 前橋	前橋南 高崎工
ハンドボール		富岡	吉井	前橋商	下仁田	前橋	桐生工
ソフトボール		吉井	新島学園	関東学園 西邑楽		樹徳 甘楽農	新藤 田岡
水泳		桐生	高崎	高崎商	利根商	前橋	前橋南
体操		高崎工 前橋工	太田工	中央	伊勢崎商	桐生	
相撲		樹徳	中之条	農大二	高崎商	勢多農林	富岡
登山		沼田	高崎工	波川	中之条	中央	太田
バドミントン		桐生商	太田商	館林 高崎工		桐生 高崎商	前橋商 新田
スキー							
スケート							
柔道		前橋商	前橋育英	樹徳 利根商		高崎 農大二	沼田 前橋工
剣道		高崎	農大二	前橋育英 前橋商		勢多農林 高崎商	利根農林 吉井
軟式野球		前橋	伊勢崎工	中央 桐生		高崎工 伊勢崎商	桐生工 前橋工
レスリング		関東学園	館林	釜川 波川		前橋商 西邑楽	高崎工 太田商
弓道		伊勢崎工	前橋工	前橋商	富岡	吉井	中之条
自転車競技		前橋工	伊勢崎商	前橋育英	安中	前橋商	伊勢崎工
ボクシング		伊勢崎工	安中				
ウエイトリフティング		前橋工	利根農林	藤岡工	藤岡	前橋育英	
フェンシング		沼田	前橋育英				
庭球		太田	桐生	高崎 伊勢崎東		前橋工 前橋	前橋 新島学園
空手道		高崎商	中央	万場	波川	伊勢崎商	藤岡
駅伝		中之条	農大二	利根農林	前橋工	伊勢崎商	桐生工

※体操…上段は体操競技、下段は新体操

総合成績(男子)

1位	2位	3位
前橋商	高崎	高崎商
76.0	68.0	56.5
4位	5位	6位
桐生	中央	前橋工
55.0	55.0	51.5

※水泳(56・8)・駅伝(56・11)・スキー(57・1)・スケート(57・2)を除く

○バスケット部

高々	94-43太田工	2回戦
高々	117-50東農大二	3回戦
高々	82-55伊勢崎東	4回戦
高々	99-55高崎商	準決勝
高々	69-50前橋	決勝

＜関東大会出場＞

○バレー部

高々	2-0太田商	4回戦
高々	2-0富岡	5回戦
高々	2-0前橋商	準決勝
高々	0-2桐生商	決勝

＜関東大会出場＞

○卓球部

高々	3-1藤岡	1回戦
高々	3-0波川	2回戦
高々	2-3高崎商	3回戦

○ラグビー部

(Aブロック)		
高々	24-14波川工	2回戦
高々	11-11前橋	抽選負 準決勝

＜関東大会出場＞

○サッカー部

高々	4-1波川	3回戦
高々	2-1中央	4回戦
高々	2-0館林	準決勝
高々	1-2前橋商	延長 決勝

＜関東大会出場＞

○柔道部

高々	3-0高崎商	2回戦
高々	3-1波川	3回戦
高々	1-3利根商	4回戦
高々	3-1伊勢崎商	敗者復活1回戦
高々	2-2東農大二	敗者復活2回戦

＜関東大会出場＞

○剣道部 本/勝

高々%	1%太田工	2回戦
高々%	3%利根商	3回戦
高々%	1%利根農林	4回戦
高々%	1%前橋商	準決勝
高々%	5%東農大二	決勝

＜関東大会出場＞

○硬式庭球部

(団体)		
高々	3-0玉村	2回戦
高々	3-0前橋南	3回戦
高々	1-2桐生	準決勝
(個人)		
シングルス	林 正和 (3年)	2位
		＜関東大会出場＞
	佐藤泰司 (3年)	ベスト8
	八木 修 (2年)	ベスト32
ダブルス	林 正和・内田 治 (3年)	ベスト4
	佐藤泰司・内田雅仁 (3年)	ベスト16

○弓道同好会

目崎松男 (2年)	4位
-----------	----

○軟式庭球部

(団体)		
高々	3-0樹徳	2回戦
高々	2-0伊勢崎商	3回戦
高々	2-1太田	4回戦
高々	3-0中央	決勝リーグ
高々	3-0高崎商	
高々	1-2吉井	

＜関東大会出場＞

(個人)		
佐藤明利 (3年)	・荒井宏和 (2年)	ベスト8
田村孝史 (2年)	・森岡直 (3年)	ベスト8
小屋弘幸 (3年)	・岡田祥英 (2年)	ベスト16
長井 洋 (2年)	・須賀博之 (3年)	ベスト16
石井公法 (2年)	・武井将夫 (2年)	ベスト16

＜関東大会出場＞

○陸上部

400M	加藤由久 (3年)	50秒2	4位
400Mハードル	内田行宣 (3年)	55秒4	1位
4×400Mリレー	高々 (石井・加藤・丸山・内田)	3分23秒6	1位

＜関東大会出場＞

翠 巒 体 育

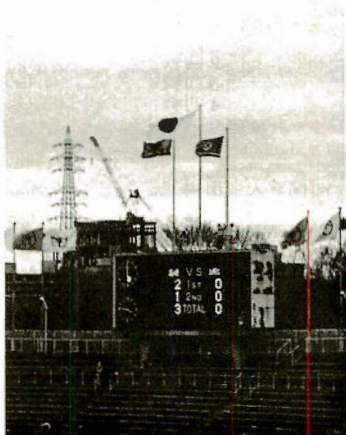
翠巒体育会役員名簿

(昭五六・六・三〇)

会 長	副 会 長 (総務)	監 査 (会計)	顧問	理事	卓 球	軟式庭球	バスケット	バレー	ラグビー	サッカー	水 泳	柔 道	剣 道
国峯善次郎	山口正敏	秋池宗一郎	東須賀正臣	大須賀正臣	大田部保	大須賀正臣	大田部保	大田部保	大田部保	大田部保	大田部保	大田部保	大田部保
五〇	五七	五八	六五	五七	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二
住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所
電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話
学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問
滝沢 武司	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一	滝沢 誠一

山 岳	体 操	野 球	応援	硬式庭球	スキー	編集部長	副部長	事務局	事務局長
清水 正爾	酒井 征哉	森田 忠義	下田 茂夫	東野 秀和	高野 政博	田中 彰	佐藤 義夫	若山 英光	赤羽 哲朗
五五	六二	五九	五〇	五一	五六	五〇	五八	七八	七七
住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所	住所
電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話	電話
学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問	学校側顧問
高橋 信男	高橋 基弘	山口 富士生	田端 正親	高橋 邦彦	飯野 尚幸	掛川 信久	石沢 弘廉	西須 秀夫	角田 匡己

この翠巒体育会役員名簿と昭和五六年度高々運動部活動状況——第一六回県高校総体——の二頁は、「翠巒体育」第七号の号外として作成したものです。  
(翠巒体育会編集部)



厳冬の青春  
— 校旗上がり校歌流る —

第60回全国高校サッカー選手権大会  
高々 3:0 三重・上野工  
駒沢競技場(S57・1・5)

# 県高校総体に向けて 柔道部

二年 富岡 誠一



柔道に限らずどのスポーツでも、「絶対に勝つんだ」という気迫が大切だと思います。我々が後一步の所で関東大会への壁をぶち破れないのは、何よりもこの気迫が欠けていたためではないかと深く反省しています。

新チームになって初めての県新人大会は、準々決勝で優勝校に当り、ベスト8にとどまりました。また関東新人大会県予選でも、準々決勝で優勝校に当り、ベスト8でした。後一勝せば関東大会へ出場出来るという所までこぎ着けながらその目標をなし遂げられなかったのも、やはりこの気迫が欠けていたためだと思います。では、どうしたらこの気迫を持つ事が出来るのでしょうか。やはり、これは、練習で培う以外はないだろうと思われます。だからその意味でも、これからの練習は、真剣に本気で取り組もうと思います。

関東大会への残されたチャンスは、後は県高校総体しかありません。しかし県総体は、団体にも重量制限があるので、重量級のそろっている我々には多少不利です。それを克服するためには、軽量級の強化に務めねばなりません。幸い、素質・能力のある人もかなりいるので、それ程苦しい問題ではないと思います。

高々柔道部は、後一回関東大会に出場

すれば、一〇回出場という素晴らしい記録を達成出来るのです。時折母校を訪れ我々後輩を御指導・激励して下さい。先輩の期待にこたえられるよう、これから皆で頑張ってくださいと思います。

## 屈辱から歓喜へ

### ラグビー部

二年 浅香 良成



我がラグビー部は、ここ二年間、全国大会県予選の決勝で東

に敗れている。特に昨年は、花園出場の最高のチャンスを無残にも碎かれたのである。ラグビーの敗北は、言訳無用の屈辱である。我々は、高々ラグビーの意地と誇りに懸けて、屈辱を晴らさなければならぬ。

そのためには、厳しい練習に耐えて体力・技術を向上させるのはもちろんであるが、それと同時に気高き魂をも身に付けなければならぬ。我々は、高々ラグビー部の誇り高き紳士達なのである。練習、または試合において、多くの友情を見付け、闘志と根性を見せ、フェアな態度と真の勇気を追求するよう努力するのである。そうすれば、県内でももちろんであるが、団体・全国大会を懸けて戦う埼玉・山梨代表をも必ず撃ち破れるはずである。

我々は、常に高校ラグビーのリーダーでなければならぬし、チャンピオンでありたいものだ。そして、何としても、

花園ラグビー場で駆け回りたいものである。我らの青春を燃焼させるのにこれ程ふさわしい戦いがあるだろうか。今、我々を駆り立てるのは、屈辱であり、燃える闘魂である。必ず、この屈辱を勝利の歓喜としよう。



## 勝負の厳しさ

### ラグビー部

三年 田代 勝史

我がチームは、その結成以来、新人大会・八人制大会・県高校総体と優勝を重ねて、県下に敵無し。の昨年上半年期であった。その冬の花園出場も、ほぼ我々の手の中と思われたものだった。

さて七月、我々は、西毛チームとして団体関東予選の県代表権を東毛・中毛と争った。これは難無く乗り切り、高々を軸として東京農業大学第二高校・高崎工業高校・中央高校から数名を補った群馬選抜が出来た。八月末、このチームで山梨の強豪日川高校と団体出場を懸けて戦う訳である。しかし組合せ上、その前に全茨城をやっつけなければならぬ。夏休、群馬チームは、二回の普平合宿での練習試合には一〇数試合無敗、名の知れた高校にもいい試合が出来た。「これなら日川とも結構いける」と神奈川県・横浜市の会場に向かった。しかし、日川と戦うべくもなく、茨城に無念の敗戦を喫してしまっただ。決して油断や気の緩みはな

◇全国総体県第二次予選 (五四・六) 学校対抗 高々2—3 関東学園 一回戦

ダブルス 秋沢 亘・阿部 浩(三年) ベスト8

シングルス 秋沢 亘(三年) ベスト16 阿部 浩(三年) ベスト16

◇新人大会(学校対抗) (五四・九) 高々3—0 洪川西 一回戦 高々0—3 前橋南 二回戦

かったが、死物狂いで向かって来る相手に対してそれ以上の気迫をもっていどめたか……。調子が出ないうちに終わってしまったでは済まされないし、どこかおかしかったでは反省にもならない。あの敗戦の場には我々は、わずかに六〇分を決してしまふ勝負の厳しさを改めて感じた事と思う。自分もそれを痛切に感じ、全国大会予選では必ず優勝をと思った。

そして、一月二二日、対農二戦17—23、確信していた花園出場は結局果せなかった。悔しくて言葉もない。続く後輩達は、我々の様な屈辱を二度と味わって欲しくない。毎日の練習の報酬は勝つてこそだ。我々も微力ながら応援したい。最後に、中原射鹿止先生(五五回・保健体育科)を始め団体の時にお世話になった諸先生、そしてOBの方々、有難うございました。



第 2 回大会 柔道部連勝

翠 樹 体 育 会

ゴルフ大会

二位 卓球部

- 深沢 昇 (五七回)
- 山口 正敏 (五八回)
- 有田 邦夫 (六五回)
- 須藤 順一 (六七回)

三位 サッカー部

- 岸 秀夫 (五五回)
- 野崎 寛 (五五回)
- 安藤 維郎 (五七回)
- 佐藤 義夫 (五八回)

◆個人

- 一位 野崎 寛 (五五回・サッカー部)

◆団体

一位 柔道部

◆個人

- 沼賀 明 (五四回)
- 冬木 金雄 (五四回)
- 沼賀 勝平 (五五回)
- 藤原 陸男 (六〇回)
- 卓球部
- 深沢 昇 (五七回)

◆団体

一位 柔道部

二位 サッカー部  
三位 卓球部

参加：三七名  
(群馬郡倉淵村三ノ倉)

◆個人

一位 生方 将夫 (五六回・柔道部)

第二回大会 五五・一一・三〇  
会場：ロイヤルオーク  
カントリークラブ

参加：五六名

◆団体

一位 柔道部

- 藤崎 裕 (五四回)
- 冬木 金雄 (五四回)
- 沼賀 勝平 (五五回)
- 桜井 弘 (五六回)

◆個人

一位 野崎 寛 (五五回・サッカー部)

第二回大会 五五・一一・三〇  
会場：ロイヤルオーク  
カントリークラブ

参加：三七名  
(群馬郡倉淵村三ノ倉)

◆個人

- 沼賀 明 (五四回)
- 冬木 金雄 (五四回)
- 沼賀 勝平 (五五回)
- 藤原 陸男 (六〇回)
- 卓球部
- 深沢 昇 (五七回)

三位 水泳部

- 山口 正敏 (五八回)
- 高見沢 隆 (六一回)
- 長井 康博 (六九回)
- 新谷 恭一 (五四回)
- 湯浅 潔 (五六回)
- 中沢 将明 (六〇回)
- 秋池宗一郎 (六五回)

◆個人

- 一位 山口 正敏 (五八回・卓球部)
  - 二位 吉野 宏一 (五八回・剣道部)
  - 三位 新谷 恭一 (五四回・水泳部)
- (事業部)



第 2 回大会

編集後記



野球は高校スポーツの花形、野球部の活躍は全運動部を刺激する。第五三回選抜大会出場は、その意味からも素晴らしい。そして、『セルリアン校歌』以前に巣立った同窓生は、甲子園で『翠樹』を歌う好機到来と素直に喜んでゐる。同時に『校歌』への関心も深く、TV・ラジオから流れ出る有名校のそれが案外単調であるのに比べて、我々には歌い難いが良い校歌ではないかとの声をよく聞く。また、日頃から歌唱指導の機会を翠樹体育会辺りで準備しておいて欲しいとの声もあり、これは一考に値すると思う。

「翠樹体育」第七号は、皆様の御協力によりこれまで最大の頁数となった。しかし、果して諸手を挙げて喜べるであろうか。原稿は必ず届けるとの約定を信じ、スペースを設定しながら編集する困難さ。早目に頂いた原稿を抱きながら待つことの切なさ。ようやく入手した原稿や写真が予想と違い、組み替える回数に及ぶ。基金難と共に、この様な所に本会運営の危機が潜んでいるのではないかと考える昨今である。(田中 彰)

翠樹体育 第七号  
昭和五十六年三月三十一日発行  
翠樹体育会事務局  
〒三七〇 高崎市八千代町二一四一一  
群馬県立高崎高等学校内  
電話〇二七三(二四)〇〇七四  
印刷 荒瀬印刷株式会社